

【資料】

身延山歴代略譜(第三回)

北 沢 光 昭

三十二世智寂院日省上人 字老辨」

師範八十如院日行字心蓮下谷普立寺二世ト」

飯高入学十三才 玄講廿一世ナリ山科水戸両文講飯

高廿世ノ化主 京妙」傳寺廿世水戸無二亦寺開基

身延東谷智寂坊造立シテ閑居
宝永元年申年退院ノ上十八年ニノ入寂ト」

元禄十一 戊寅 年十一月請待十二月十三日入山 水戸ヨリ直ニ七

ケ年」

稚童寛丸 了観院日解法師 元禄十三庚辰九月十三日千頭和六左衛門ノ
受教院日行法師 元禄十四辛巳五月三日十二才

子息ナリ十二才」

全 清丸 教其院日受法師 宝永元年申十月十二日十二才」
門連院日受法師 宝永元年申六月廿七日十七才

石門稻荷社 并拜殿建立 元禄十三庚辰十二月朔日

日省判形」

真符盛前阿伽器造之 元禄年中 日省代」
銅水鉢角四間 再建翁願主学神院日誌

石門稻荷 并別當所六間 元禄十四辛巳年 日省判形」

身延山歴代略譜(北沢)

(28才)

高座石凳頭ス 日省師代便」諸人協依掲仰一開基ハ」
学神院日誌 妙石庵ヲ造立ス」

影現七面天社三間 四方幣殿一間半二間拜殿二間半三間半」
外縁三尺五寸外縁三尺五寸外縁三尺五寸

発起主 學禪院日逢 本願院日縁 元禄十四辛巳十一月廿九日吉辰」
支理院日儀 三十二世 日省判形

奥ノ院別當再建立 元禄十六癸未年ナリ 日省代」

全籠リ屋 本ト別當寮ナリ 元禄十六癸未引之修復ス」

元禄十四 辛巳 五月十九日紫衣參内賜ニ給旨」

燈主堂三間半新建立 棟札日省判形」

宝永元年甲申十一月廿五日玄理院日儀ト」

燈主堂 并萬燈室ノ兩額ハ 竹林房十七世支理院日儀ノ筆ナリ」
省師御代

宝永元年甲申年退院智寂坊ヲ造立ノ閑居十八ケ年」

石門稻荷之宮殿再興 正徳元年辛卯五月成就 全三壬辰年又再興ス」
其年八月大風ニ皆破損

実退房日修 日省判形」

享保六年辛丑年正月十三日未明八十五才入寂」

省公辞世 カリニキテ今立婦人本覚ノ

モトノスミカハ真如ナリケリ」

〔註〕

(1) 後ニ(身延入山後に開基となるの意、私云)

(2) 明治八年焼失 像ハ智寂房ニアリ(頭註)

(3) 別當「寮」か。(私云)

身延山歴代略譜 (北沢)

(4) 文政七年焼失

三十三世遠沾院日亨上人

通師ノ弟子 初、遠理院ト云フ 字領海

越中富山ノ産ト

父 清運院神慶日喜 慶安三庚寅年六月廿九日 母 願珠院慶日理 元禄人乙亥年八月七日

山科 飯高廿五兩檀文講 京妙傳寺 立本寺廿五

京満願寺開山 周防國岩國法要寺開基三清泰院ト

後ニ江戸谷中領玄寺へ隠居ノ化七世

宝永元 甲申 九月請待十一月九日京岡崎ヨリ入山在位

十年

児童榮寿丸 源天院日寛字士 正徳二壬辰二月十一日飯高所化廿三才死 延寿丸

七面別当 正徳三癸巳九月廿一日五十五才化 卒師ノ門人 西之厨七世 修善院日得

奥ノ院別当 宝永四丁亥年正月 日化 理運院日忍

唐本一切経藏本藏二百十二函又夕統藏三十八函目録合ノ三百四十九函

十函

日字代新ニ奉ニ贈之寶永元甲申十一月九日入院ノ時発願スラク当山ニ遷レ布ト 藏經ニ在上ノ山ニ故ニ不レ便急用ニ又倭藏ニシテ有ニ欠本欲ク求ニ唐本安テ置セト 本院ニ宝永三丙戌五月当山永常衣袈裟御礼ニ上京診内之稱リ於ニ押テノ 小路唐本書林ニ有ニ新撰好本 欲圖節之也ト ○此藏經ハ(3)文政十二己丑九月六日戌ノ刻火災ノ節灰燼トナル日環上人ノ代ナリ ○依レ之江戸谷中領玄寺ニ有ニ之卒師 御所持ノ藏經三百四十九函贈レ之 当山(安位ス彼ノ住職良雅日感代ナリ) 当山旧本ヨリ又統藏ノ分九函多ク之(4)

(29オ)

宝永三丙戌 年四月五日久遠寺永紫衣賜綸旨参内 堂ノ前蓮葉金ノ水鉢 宝永三丙戌八月 施主 陸源坊ノ二代寛徳院日宝ト

供厨四間半建立 往古ハ二天門ノ脇ニ有之中古ハ西谷道ノ辺リニ引移シ 俗ニ云ニ御供所 從往古雖有之遠隔又損スル故ニ卒師代堂前ニ移シ之改ニ造之ニ師ノ御供所トシテ寄附田地ト又新ニ建立 供厨一 施主ハ和泉村大木四良兵衛同佐夫也 宝永三丙戌十月十三日 三世日字判形

高座石ノ祖師堂三間半三尺庵三間半 号ニ妙石庵ト

宝永三 丙戌 年十月十三日江戸中新建立 日亭判形

羅刹堂檜皮葺更 宝永二乙酉年正月廿二日 施主 浅原村五味半弥 日亭判形

大地震 宝永四丁亥年十月四日未ノ刻至五日辰ノ刻諸國大地震ナリ 浪損死等數多当山内諸堂大損諸々大破斃死モ一十八人ナリ 依テ普請始ル

藏經堂四間四方 新建立ハ 宝永四丁亥ノ冬取ノ年ニ普請建立ス 十一月四日ノ燬災ニ別損スル故ニ翌五丁年戊子歲引テ移シ今ノ地ニ再建成就ス 施主ハ伏見官ノ息女紀伊大納言 日光貞卿ノ孫中安ノ宮法号天真院殿妙日雅大姉

御靈骨ノ宝藏 右十月四日未ノ刻燬災ニ拜殿等大ニ損スル故ニ又夕後(9)ノ山近フテ危峻ナル故南ノ方(ハ少シ引出シ西ノ方(ハ寄セ宝藏)再建立落成又夕中央拜殿地下悉ク再興ス 本願主紀伊大納言 領宜卿ノ息女松平相模守光仲ノ内室芳心院妙英日春大姉

右芳心院者養珠院ノ孫女也元ト宝藏ハ養珠院ノ建立故ニ亭師述ニ其ノ由緒ノ勸レ之ト云フ

靈寶藏 宝永四年燬災ニ又損スル故南ノ方(ハ少シ引出シ)宝藏ニ居損ニ又夕昔ノ引隨下ヲ拜殿ト宝永七庚寅年十月 十二日上棟ノ棟有之ニ宝藏ノ額ハ卒師ノ筆ナリ

(29ウ)

東ノ土蔵 右殿災故損ス南ノ方へ引徒之再

古仏堂 右殿災ニ付損スル故ニ修三神ノ
施主ハ江戸神田山田吉平山田太良兵衛

石壇 延師通師兩代ニ造之石十月四日ノ燬災ニ大破損スル故ニ
延師悉ク補之復之

奥位牌堂 三間新建立 宝永五戊子年

祖師宮殿新造立 宝永五戊子年於ニ京都ノ作レ之金子五百兩 余ニテ成
就之

施主本願分ハ宮殿ノ内ニ立ニ其ノ牌ノ作者大仏師山田式部ナリ 檀度銀ハ
有上成三十三世日字判形

松ノ木ノ祖師堂 二間 正徳三壬辰年 全所息寮 宝永五戊子建立
四月建立之

十万部ノ祖師堂 四方 寶永六己丑年 陽山建之 棟札日亭判形

七面山ノ本宮 日字代別當修管院日得道谷ヲ勸化シテ 金柱惣極彩色
金盃附檢天井金物雨覆雨戸玉垣池之廻門水溜之天井惣
門等成ハ建立成ハ修飾之為ニ防ニ雨濕ニ悉ク以ニ油丹塗之

本地塔 四方外棟付 寶永七庚寅年 為レ令ニ諸人ニ遊祖ノ本地
新ニ建立之

ハ上行「ササ」 ナルコト 建立之 他家ニモ 塔ハ武江ノ住人植
有此例

木助三郎喜三捨金三百兩」没後ニ立之銅瓦ハ助三
郎ノ養子助五郎」

上行菩薩ノ像 本阿弥空中梵光前法眼存日ニ奉造立之
没後ニ飯沢兩店日現納出山

開關會ノ始メ 祖師堂ノ廊下 寶永七庚寅年六月十六日ナリ
組恩金ノ時作之常ニハタムミヲク

文永十一年 甲戌 六月十七日當山建立ノ日ナル故ニ
興起ノ御書當山ニ有之最モ」可レ營ニ報恩」日也又

身延山歴代略譜 (北沢)

(30オ)

(30ウ)

タ諸國及國中參詣容易之時節ナル故ニ亭師」肇
之、法事ノ僧法五十通り同年ニ條ニ依之ヲ施入ノ諸人別記ニ」有之
當前起立ノ願三十流并ニ龍頭等舞台并廊下」ニ櫻木引ナリ於ニ京
都新ニ織ルレ之ヲ十種供養之具并ニ新供之具」及香燭造花兒童ノ天冠貫主
ノ天蓋等悉ク於ニ添置ニ新ニ造ル

報恩修造撰大法會本願并惣施主大帳」有之日字判形

寶永七 庚寅歲 (14) 救願寺宣下」

翌八正徳 辛卯 五月七日勅願賜三綸旨」參内ス

御廟ノ番僧寮 妙福庵亭師自ラ志シ宝永八辛卯春開レ地ヲ
為レ櫻川水」以石築レ之」一式新ニ建立ス

尼舞臺 三間四方 往古舞台歷シ年朽損シ見分不レ宜 六本ノ柱ヲ」
四本トス 亭師代

正徳二 壬辰 年再建立 施主武江深川 冬木ヤ 田中源
四郎」

同樂屋并廊下 宝永四年ノ燬災ニ類落スル故ニ亭師代改造ス

大門 二間半 往古ハ車裏ノ下ニ建シ有損破シ狭ナル故ニ撤之武井坊」西
東ニ合」ノ辺ニ開地ヲ新建ス正徳三壬辰六月 日字判形」往古ハ在
車裡ノ前ニ日真師代ニ今ノ坂口(引之之箇又今般下ケテ建ル殿)施主ハ武江
住人近江ヤ妙登長サキヤハ右衛門同平四郎」伊勢ヤ治兵衛兼門中同女
柳中」

書院并ニ學問所休息所七間半 亭師代合ニ三ヶ所ニ 建立ス」(16)
宝永五戊子年也 西ハ狩野春笑ノ筆
三ヶ所不レ残同筆ナリ

小方丈 勝手不レ直故ニ亭師代開レ北方ニ 北ノ方ノ床ヲ縮ム」
西ノ方へ移シ又地形ヲ整ルコト」尺余ニ悉ク改造之

料理所湯浴所金支配部屋廊下七ヶ所 日字師代
悉ク再建之

身延山歴代略譜 (北沢)

兒文殊ノ宮三尺六寸四尺六寸 正徳二壬辰年 亨師再建之

妙見大士ノ堂三間半 日字代改テ妙見宮トノ改造之 上ノ山日字代改テ妙見宮トノ改造之 上ノ山 榎現宮ノ辺ニ有之 後ニ西谷目林ニウツス

発軫額ノ三大字 水戸中納言綱條卿ノ筆 (日字代)

三門前常唱堂并頭寮香殿 結衆寮新建立 施主本願武

州住人三河屋吉左衛門 日亨判形

宝永五戊子年夏也 本院經藏前ノ庭泉水等 堂前ノ橋 石灯籠并上位牌堂前ノ花壇 毘陀東ノ方ノ小庭 寶室藏前ノ藤棚 古仏堂辺ノ井并池ノ西ノ大石ハ上ノ山判堂ノ辺ヨリ引之 西ノ方ノ中門新造 花壇ノ門藏ノ門等亦新ニ造之

庭ノ作者ハ京妙顯寺住僧本妙院 閑居甲州

妙玄庵十二間半 西谷鑿林玄鑿寮也 日亨判形

宝永四亥年 甲府城主松平甲斐守殿ニ身延山由緒 母上ノ中ニ云京都山科 鷹峯岡檀林下總飯高檀林ニ而字問其ノ後山科盛國寺飯高法輪寺ニヶ所ノ文能ヲ勸メ又々京寺町妙伝 寺立本寺ニヶ所住職其後一切經拜見其ノ後洛東四崎ニ滿願 寺ト申ス寺再興其寺ヨリ宝永元年申十一月九日ニ身延久遠寺 (ハ入山儀)

宝永中將軍洞吉公磨手殿中普門品ノ御佛聽聞有之

正徳三癸巳年五月退院江戸谷中領玄寺 九ヶ年閑居

享保六辛丑年十二月廿六日七十六才 願玄寺ニテ入寂火葬

山二 瓶ニ納メ葬三 当

ス

ス

ス

ス

註

(1) (この一行誤りとして消し、次の文を入れる。) 京

都市上京区笹屋町太田氏ノ産ト、西陣織工業ニノ

当主ハ太田喜三郎ト云フト

(2) (日付を欠く、私云。)

(3) 「文政十二……日環上人ノ代ナリ」ハ朱字書き入

れである。

(4) 幸ニ明治八乙亥年一月十日ノ火災ニハ此ノ藏經ハ

残ル也

(5) 「日実」を「日宝」と訂正。

(6) 明治八年火災焼失

(7) 富士山ヤケ宝永山現レ近国へ砂ルハ此時歟

(8) 返り点「一」を欠く。

(9) 「險」ハ「險」の音写。

(10) 「居」ハ「屋」の写し違ひ。

(11) 返り点「一」を欠く。

(12) 文政十二年火災焼失ス

(13) 文政七年火災焼失

(14) 「救」ハ「勅」の音写。

(15) 文政十二年ノ火災ニ焼失ス

(16) 是モ震災故カ

(17) 「且」ハ「檀」の音写。

(18) 明治八年ノ火災ニ付引テ本院ノ仮客殿トス又々全

十五年十一月廿四日ノ出火ニ灰燼ス
(19) 宝永二(年、私云)ナルベシ

三十四世見龍院日裕上人 亨師ノ弟子字龍海」

山科文謙十九 京満願寺二祖 水戸支講 飯高

文五十四 兩講」但シ正徳二壬辰年十一席 小湊山廿七世」

正徳三癸巳年六月五日小湊ヨリ直ニ入山在位二十

年」入山後出府鎌日御礼登城勅之」

兒童 慶幸丸 元始院日恭法師 享保五壬子十二月廿五日

勅許權律師 格致院日慎聖人 安永五丙申四月十二日当山一老清水坊

奥ノ院別當 妙経院日誠」 飯高村ノ産高登坊開再々シテ閑居ス 寛師代一老被申付寛保三癸亥閏四月十九日六十五才」

八幡宮宝殿檜皮葺替 享保四己亥三月廿八日 日裕判形」

享保三⁽¹⁾戊戌年四月廿三日賜三繪旨一參内賜紫敕許親宣

上人ト云フ」

享保五庚子年五月廿一日入皇百十三代御真翰」

日蓮大菩薩号頂戴 坊城大納言殿丞状有之 堀川一法院日法上人ノ取次也」

(朱字) 堀川一法院日法ハ大驗者也青柳昌福寺」十二「卅歴」脱師弟子

河内領根根村正行寺十五世中興寺記ニアリ」享保四己亥二月十三日六十

一才化ニト道行ノ納ル由」 現住ヘ了立日取 日裕判形」

追分祖師堂再建 享保七壬寅年 施主江戶段草六人

身延山歴代略譜(北沢)

奥ノ院諸堂修營 裕師代」

祖師并御兩親六老僧之像衣更 裕師代 濕壁ノ法則有之」

高祖四百五十遠忌 享保十六辛亥十月一七ケ日問大法会 修行勅之 裕師代」

享保十七壬子年五月一円庵へ退居六ケ年」

元文二丁巳年正月八日七十五才一円庵ニテ入寂」

〔註〕

(1) 「五」を「三」と訂正。

(2) 「元禄六癸酉年五月六日脱師初テ参内之繪旨右中

辨トアリ」

爰ニ廿八年ノ後チ」

〔學字〕 享保五庚子年五月廿一附ケ裕師代ササ号之副翰

ニ都護前亞相藤花押トアリ」 別頭統紀ニ小川坊

城前亞相藤俊符卿トアリ 此兩書ハ坊城家全人ト

考フ(貼附)

(3) イ(七十)七

三十五世誠峯院日竟上人 字實等」

母 顯性院宗哲日體 享保七壬寅二月十二日」

読師ハ威音院日量聖人 享保五庚子二月廿一日」

山科文謙 甲府信立寺廿世 京妙傳寺 飯高^(朱字)文六十八

身延山歴代略譜（北沢）

滝谷妙成寺」

享保十七 壬子 年八月二日 能州飛谷出生 江戸總目録據濟 十月八日入山在

位三ヶ年」

児童 以一丸 順了院日眞法師 享保十九甲寅三月八日」

院代 千如院日近聖人 字山智 甲府遠光寺廿八 越后村田三十二 版高八十七ノ文庫宝曆五乙亥十一月十八日

奥ノ院別当 長壽院日影」

永代六月不易千部発起 享保十八癸丑年二月 本願人并助 施入儀序有之

願之姓名大曼荼羅日竟判形 但シ日竟日潮阿代ニ」

成就潮師ノ大曼荼羅モ有之」

享保十九 甲寅 年正月廿一日五十八才入寂」

三十六世 ⁽¹⁾六牙院日潮上人 字海音又ハ潮音元

師範ハ草山恵明院日燈律師 元政上人ニハ日潮師ハ孫弟 子ナリ 享保二丁酉九月十二日化

松ヶ崎文講 仙台孝勝寺 飯高文講五十二世」

元文元 丙辰 年 山台ヨリ 江戸登城濟 九月廿五日六十三才ニテ入山

在位九年」

院代初ハ誠諦院日審聖人 元文五庚申十月十八日化」

同 次ハ一中院日如聖人 字正門 西谷化五十世」

奥ノ院別当 清閑坊」

龍門ノ額開會関 潮師ノ筆 元文三戊午四月廿八日 額取ニ施主名列記ス

三門閣上身延山ノ三大字同筆」

七岳山摩尼珠嶺 全筆 是ハ今ハ北院ノ鳥居ニ掛ルロシ 南院ノ額ハ獅子吼居ト有リ

上ノ山八幡宮ノ額 全筆」

西谷惣門二間二尺同通路 寛保元 辛酉 年 潮師代」

全旃檀林ノ三大字 右ハ日燈上人百回忌ニ爲供養明之建ルト」

旃檀堂再建立 潮師代 文文四己未三月廿八日 檀札ハ 享文院日盛筆判形

宗祖御廟一式再建立 延享元年甲子年正月 施主大坂

寛保三 癸亥 年 四月廿二日賜三綸旨一参内」

祖師堂ノ菊天井 延享元 甲子 年正月始レ之九月造畢」

施主ハ江戸京橋大津新兵衛 爲屋賃(御願号) 成正院日燈聖人ト

延享元 甲子 年十一月廿四日一円庵へ閑居ス五ヶ年」

寛延元 戊辰 年九月廿日七十五才入寂」

〔註〕

(1) 其先出レ自三百濟國一聖明王ノ玄孫琳聖太子ト云

京師ノ人青木氏父ノ名元澄ト云

(2) 元文四己未ハ元文四己未と思われ。 (私云)

(3) 「享保」を「延享」と訂正。

(4) イ (異説の意、私云) 二十二月六日退

(33ウ)

(32ウ)

(33オ)

(34才)

三十七世薩心院日寛上人 潮師ノ弟子字宣妙」

鎌倉本覚寺 池田本覚寺 小湊三十二 飯高七十

五世」

延享元 甲子年十二月同二乙丑年正月廿二日小湊ヨリ入山 在位

六年」

院代 本義院日地聖人三十四才ノ時院代勤 当山四十九世ノ山主ナリ九十才ニテ化

奥ノ院別当 円仁房日言」

寛延三 庚午年正月廿一日六十七才入寂」

三十八世廣演院日答上人 脱師ノ弟子字高通」

甲州休息山廿一世飯高文六十一世

寛延三 庚午年六月休息ヨリ入山 在位六十日」

同年八月十五日七十三才入寂」

〔註〕

(1) イニ八十五化ト

三十九世貞明院日総上人 字三益ト改貞明」

奥州白川開會山妙閑寺ヲ開基ス 京妙傳寺三十六

世」飯高文七十四世 上州前橋永什寺」

寛延三 庚午年請待全四 辛未年四月廿九日前橋ヨリ」

身延山歴代略譜(北沢)

四十世圓通院日輪上人 字泰学」

上総奥津妙覺寺三十七世 京東山文講 飯高八十

一世」

寛延四 辛未年十一月十九日奥津ヨリ入山 在位四ヶ

年」

院代 智照院」

奥ノ院別当 誠明院日宣聖人寶曆十二壬午二月十五日 崇之坊廿三世七十五才化

古仏堂ノ祖師江戸淨心寺ニ開帳 寶曆三癸酉四月朔日ヨリ 六十日ノ間

御眞骨宝藏并中央廊下拜殿共以銅板葺更之」

宝曆三癸酉年九月十七日成就 日輪形」

三門家根銅瓦ニ葺替寶曆三癸酉九月十九日始之同 日輪代

天神宮三尺八寸同雨覆二間半新建立ス寶曆四甲戌年 二月廿五日 重榮

梅天神ト云フ家根銅板ニテ葺之上サ奥津妙覺寺ヨ

(35才)

〔註〕

(1) 或ハ(八十)四(日)

入山 在位八十日」

奥ノ院別当 慧秀院」

寛延四 辛未年閏六月廿九日八十三才入寂」

身延山歴代略譜 (北沢)

リウツス

祖師堂檜皮葺更 三十七世寛師御代企之
四十世輪師御代成就

奥院孝東院座式新建立 輪師代

② 圓師堂 三間新建立
寶曆四甲戌年輪師登壇ニテ不成就ニテ
遺化 施主ト茲誠合成就ス

施主ハ金二百兩 江戸 板倉宿兵衛 外ニ輪師ヨリ金三十五兩寄附ス
松屋四良兵衛 (3)

宝曆四 申戌年四月廿日六十四才入寂

〔註〕

(1) 慶応元年十二月十四日焼 (頭註)

(2) 文政七年火災焼失 (頭註)

(3) 山谷正法寺ノ且中花川戸松本四良兵衛ナルヘシ

四十一世能治院日妙上人 字宥雅

野呂妙光寺卅四世 飯高文六十七世
江戶四ツ谷戒行

寺

宝曆四 甲戌年七月八日戒行寺ヨリ入山 在位四年

院代 即成院日迅聖人

同 日融聖人休息立正寺住職

奥院別当 莖真院日葉

靈寶藏ノ内陳檜皮葺更

丈六堂檜皮葺替

(36オ)

大黒堂全断

位牌堂前通り全断

① 圓師堂 寶曆七丁丑四月廿五日遷座
代企之今般成就新建立也 (3)

宝曆七 丁丑年八月三日七十七才入寂

〔註〕

(1) 明治八年ノ火災焼失ト 是ナルベシ

(2) 「論師」ハ「輪師」ノ誤リ。(私云)

(3) 輪師ノ下ニ有之

四十二世耐慈院日辰上人 字修海

上サ四夷隅郡内野郷若山村ノ産十一才出家門海日辰ト改メ小西摩玄義
ニテ飯高ヘ入寂修海ト改メ成功ス

辰師板頭ノ時 (1) 元文二巳年ノ大地震ニ付諸堂 大破以テ工夫諸所修營
ヲ成弁スト又勤學已来常ニ口申ノ痛ミ語種演 説等不任心我レ常ニ念願

スラク命終ノ後チ口申ニ病有ル者ヲ救護ノ令ニ平慈聖願ス依テ朝夕仏神
ヘ念願スト云フ又チ船願ニ有テ慈悲諸人ノ折誓ス利益日ニ新也

(2) 上総国府茎宝墓山本泉寺中興 比企谷妙本寺三十

五世ト 飯高文七十七世 上サ大野栄久山光福寺五十

五世 後ニ身延 東谷 樹下庵ヲ開基ス

宝曆八 戌年 上サ大野ヨリ入山 在位五ケ年

院代 妙雄院日遷聖人 明和三丙戌
十一月廿九日

千代丸 宣宗院日顯仏 宝曆九己卯五月廿九日十一才没ス
千代丸 善利院日法 宝曆十一辛巳(3) 六月十七日

院代 妙雄院日遷聖人 明和三丙戌
十一月廿九日

院代 妙雄院日遷聖人 明和三丙戌
十一月廿九日

(37才)

同 瑞妙院日輝聖人 明和六己丑 六月八日樹下庵ニ化

奥院別当四人 慈船院日蓮 円男院 勝壽院 不樂院

七面山ノ別当 遠壽院日長聖人 安永九戊子十一月廿五日

但シ五十五代ノ別当ナリ七面山水環跡ノ祖也樹下庵ニ代同庵ニテ死ス

千部誦誦十方部供養 宝曆十庚辰六月辰師勅之 大衆恭敬有之又一返首願諸結縁者へ出レ之

西谷座推鐘之銘 辰師ノ作

追分祖師堂再建立 宝曆十一辛巳九月廿日 願主盛井坊十八世良貞日感 日辰判形

祖師堂御舞台 舞楽ノ由来及ヒ勸誠 宝曆十二 壬午 年秋 至 要 親 曲 舞 樂

日辰判形

三光天之宮殿 宝曆十二年壬午五月十五日 日辰判形

宝曆十二 壬午 年七月廿一日一円庵へ御退休ノ四ヶ年

明和二乙酉年十月十八日八十歳入寂

〔註〕

(1) 元文三(年、私云)八月ノ文講ナレハ化主ノ時ナルベシ

(2) 「府基」を「国府台」と訂正。

(3) 「己巳」を「辛巳」と訂正。

(4) 私ニ曰祖山相繼ノ餞飯高檀林能化職ニテ進山ノ

身延山歴代略譜(北沢)

(37ウ)

処口当辰師ニテ城下谷ハ池上へ進住シ身延ハ松谷

中谷ニテ隔代ニ晋山スルヌニ寺社奉行所ニ於テ被

申渡依テ辰師ハ御退藏スルト見ヘタリ此儀ハ飯高

ノ首中函内ニ委細有之先年拜見ス從是松中両谷隔

代ニ進山ス先ツ日見師松谷ヨリ入山也見合ベシ

四十三世理天院日見上人 字理天

越後国鉢崎有馬氏ノ産

谷中正運寺十 飯高文政廿一 世 江戸駒込大乘寺十二

世ニテ 佐野妙頭寺廿四世ヲ兼任職

宝曆十三 癸未四月 五月廿九日 江戸出立 入山 在位五ヶ

年

兒童 三説九 多聞院日悟法師 江戸産 明和五甲申九月五日 富九 以信院日惠法師 明和三丙戌八月十七日

院代 成遠院

同 智見院日住聖人 字頭禮 西谷文講四十六世 有野行齋等歴

奥院別当 顯誠

三光堂 三文字 見師ノ筆 明和二乙酉七月吉日

明和三丙戌年五月十五日賜ニ綸旨ニ参内

全 四丁亥年退院一円庵へ閑居三ヶ年

明和五 戊子 四月為ニ養生ニ御出府全六年 己丑 二月五

日江戸表ニ於テ遷化二月廿七日御遺骨一円庵へ

身延山歴代略譜(北沢)

御着満山大衆加用人迄」惣門へ出迎結衆中三門へ
旦林満山惣門へ町役人舟原迄」出迎等勤之三月二
日御本葬也」

明和六己丑年二月五日亥ノ中刻七十七才入寂」

〔註〕

(1) 勤役ノ後寺沢村へ隠居スト

(2) 百(四十六世)カ

四十四世潮音院日寶上人 潮師ノ弟子字海輪」

武州江戸新橋ノ産」

父 智光院宗普日妙 享保五庚子七月廿一日
母 尊嚴院妙光日宗 享保九年辰四月十四日

飯高文百六十五 芝一乘寺歴」

明和五戊子年 芝ヨリ入山 在位二ケ年」

明和六己丑年八月六日五十九才入寂」

四十五世寂隆院日應上人 字智恩」

下総飯高村葦ノ田小兵衛宅ヨリ出家ス」

江戸谷中本壽寺 上依智妙傳寺 野呂妙興寺」

飯高文百八十三

明和六己丑年十二月二日野呂ヨリ入山 在位五ケ

年」

(38才)

(39才)

兒童ノ弟子 大隆院日勇聖人

字字亮 三田樂王寺歴
治師ノ院代 寛政十二庚申

三月廿九日」

全 弟子 序應院日慶法師 安永六丁酉六月廿五日」

院代 一相院日坎聖人 歿許權律師 下谷宗延寺
字潮貞 寛七乙卯年二月十八日

上ノ山七面大明神

形監舟筆
明和七庚寅八月吉辰

應師代」

大平橋中二間
長十二間

明和七庚寅十二月成就渡り初メ九十

三才ノ翁」当上新町住人小倉縫左衛門法号橋初渡

翁信士 本尊應師ヨリ」

安永二癸巳年五月廿八日陽ニ繪百一參内」

当山開關五百遠忌ノ嘉会 安永二癸巳年六月十七日迄ハ例之通
十八十九日法用別ニ勤之

諸堂并向拝惣修復彩色塗り地 紀州御殿信敬院殿」

小石川御殿賢姫薰姫君渋谷御殿善修院殿女中各

々々」安永二癸巳九月 板札日應判形」

久成殿 本堂ノ額 應師ノ筆 安永二己九月
施主面々 板札日應判形」

鬼子母神 横 額 全」

經 蔵 上ノ山 全」

獨 尊 丈六堂 全」

大黒天 上ノ山 全」

常唱堂 上ノ山 全」

思親閣 奥ノ門
二玉 全」

真如閣 東谷 全」

安永二癸巳年十二月十九日七十九才入寂

除歴日唱

字守慎

(39ウ)

① 江戸下谷中善性寺ヨリ晋山

安永三甲午年五月十二日入山 在住四ケ年

院代 弟子壽光院日理 奥院别当初ハ輪行院

隨身役 弟子遠光院日壽 同 次ハ智仙院

弟子惣代 本光院日晴

惣門外境之事

小田船原村ト久遠寺ノ境ト松園ニ致シ中井清太夫殿役所(申立テ御料ノ地面)久遠寺ニテ三捨九間二尺五寸借用致シ御札ヲ建候趣久遠寺一役僧并小田船原村名主長百姓代連番並上永借地ト定リ候安永四乙未年八月三日唱師代役僧円如院(戒誓坊)

七面山焼失之件

安永五丙申年十月十一日ノ夜出火焼失(翌十二日西谷能化日連)ニ向テ眞主ノ曰ク七面山ノ焼失ハ元トマシ邪神ノ故ト申ス依之及三難勸故ニト諷言ラモ不用候故ニ翌六丁酉年三月新云公処四月廿七日寺社奉行ヨリ御旨状ニ付五月朔日当山出立同五日公処(若届六日法臨不受悲田ノ異流ニ落居ス脱衣ノ上直ニ掛リ屋入被申付右アカリヤニテ死去無二極山ニ罪ノケ余ニ依テ一当山除歴ス最モ飯高并教藏院モ除歴也善性寺モ同断ナルベシ

安永七戊戌年正月廿七日御裁許済ミ委クハ公訴書録ニ有之

日唱認ノ本尊授与之分麓坊ニテ不残取上ケ火失致ス也

日遊日豊両尊師ヨリ書改メ夫々へ遺ニ本尊一但シ本尊ヲ一認方ニ御列一異流ト申ス更 一老円解院日聖御代々ノ御名前モ

身延山歴代略譜(北沢)

盛

[註]

① 四十六世

② 妙乘院

③ 飯高文百七十九世

④ 山高実相寺ヨリ巡番ノ化主ナリ

⑤ 初度 安国坊日奥聖人 京妙覺寺十九世ト

慶長 對馬(配流十三ケ年ニシテ)船ルト 寛永七庚午三月十日七十一才化

二度 長遠院日樹上人 芝朗樹寺ヨリ入山カ 池上十五世除歴大覚建立主ト 寛永七午二月廿一日酒并雅楽頭宅ニテ問答対決也己ノ刻ヨリ

自ハ 身延日乾日遠日隠深原日東玉沢日連瑠基并心了院 六人 池上日樹中山日實平賀日弘小西日領碑文谷日進中村日光 六人

決着 日樹ハ信州伊奈郡飯田(御須ヶ)置寛永八未五月十九日遷化

寂靜院日賢中山九世除歴但シ日樹ノ弟子三河日賢ト云 除歴配流 小西日領守玄院ト云フ相馬(配流)

寛永三ノ生レカ 三度安国院日講聖人 字惠雄野呂妙興寺廿世ト

寛文六丙午年春破破集記土下二卷作 全年四月十七日附ケ守正殿(一國)欠落カ章ヲ作テ寺社奉行ハ歎ス四代家朝公ノ時ナリ依テ日向(配流在龜三十三ケ年ニシテ)元禄十一戊寅三月十七日七十三才遷化スト

自ハ 身延廿八代日眞 他ハ日講平賀日述小浜日連碑文谷日晴奥津日連谷中日誠 六人 延山集師ハ登寛文七未十月廿三日六十七才遷化

身延山歴代略譜（北沢）

元禄四辛未年四月廿八日悲田供養之新儀企ニ停止被仰事

自ハ身延三十一世日脱池上ハ日現師代（支師ナルベシ）

他ハ小湊日映碑文各日附谷中日燈唱ノ真流脱師札之公願

元禄十一年谷中碑（「文」欠落カ）谷為「天台宗」

△安永五申年頃身延日唱不受悲田唱フ企（「企」ならん）七年正月廿七日御裁許也

△貼付▽

四十六世領峰院日邊上人 初ハ日宜ト云フ 字湛如

甲州巨摩郡両畑村字久田子ノ産也身延西谷ノ棚澤

勇」成坊ニテ剃髮スト

飯高名音五十八 奥津妙覺寺 小田原玉傳寺

安永七戊戌 年小田原ヨリ入山 在位一年

同年十二月十八日七十四才入寂

〔註〕

(1) シト(訛む)

(2) 小田原遊師ト云フ

四十七世亮心院日邊上人 字玄妙

駿州小鹿村ノ産

川越休莖寺 下依智妙純寺 京聖 飯高百廿六

安永八己亥年六月八日下依智ヨリ入山 在位七年

児童 徳壽丸 宗祖五百遠忌ノ児也

(41才)

同 寛心院日冲聖人 字玄師 大林房二十五世 文化十癸酉四月二日

院代 智照院日如聖人 字泰信

同 慈舟院日安聖人 福嶋長良寺 天明七丁未五月廿五日

影現 拜殿葺替 安永八己亥八月廿八日始之 豐師代

裏門修復柱ノ根ツキ 皮家根更 日豊判形

三光堂三間半再建立 安永九庚子 日豊判形

七面山ノ本宮四間 再建立成院禮 四月廿日 日豊判形

妙石庵再建立 天明元丑閏五月十九日有日妙 日豊判形

高祖五百遠忌 天明元辛丑年從九月廿七日至十月十三日大法會勤之

相輪塔 天明元辛丑年十月十三日豊師代新ニ建立シ相

七面山ノ幣殿四間拜殿七間半再建成就 天明四甲辰六

月ヨリ同五乙巳六月廿五日迄ニ 日豊判形

天明五乙巳年十月廿三日退藏一円庵へ閑居

天明六丙午九月三日七十四才入寂

〔註〕

(1) 「上依智」を「下依智」と訂正。

(2) 万部之導師ト

四十八世光漸院日源上人 亨師孫弟子ナリ字會傳

上サ国殖谷郷寺家墓村海宝氏ノ産也」

父 円善院法安日興 宝曆四甲戌七月六日
母 通善院妙安日中 宝曆八戊寅五月廿八日

師範ハ漸學院日教聖人 字師ノ弟子ナリ 宝曆六丙子九月十二日七十三

下サ内山妙傳寺 江戸二本榎円真寺 房州小松原」

鏡忍寺 飯高文百七十七世

天明五乙巳十一月八日 同六丙午 三月廿日小松原ヨリ入

山在位八年」

兒童 亀若丸 快勇院日延法師寛政四毛子十一月五日

院代 本光院日相聖人字支瑠 飯高阿彌主投意遠光 寺 享和二壬戌八月八日化

隨身役 不輕院日禮聖人字礼敬 下谷宗延寺 文化六己巳十二月十五日

全 甘露院日泉聖人字前旭 山谷正法寺 寛政三辛寅八月五日

夏鐘堂檜皮葺更 天明六丙午 四月日棟札日源判形

寛政五癸丑年正月廿一日一円庵へ退藏閑居二年」

全 六甲寅年三月十七日八十六才入寂」

〔註〕

(1) イ二十月

四十九世本義院日地上人 字観十」

駿州小鹿村ノ産」

身延山歴代略譜 (北沢)

江戸一本松大法寺 当山三千七世 寛政ノ院代 勤ル三十四才ノ時ナリ 飯

高文百八十九世

寛政五癸丑二月 一本松コリニテ入山在位五年」

兒童 徳壽丸トナリ 弟字 本具院日專聖人清水院円庵房ノ歴代 天保十一庚子九月六日

院代 潮文院日暹聖人当山五十五代 進山 村田妙法寺

隨身役 本勝院日運聖人初ハ明行院ト云フ松玄坊ニ閑居而化 天保八丁酉正月十八日

院代 本理院日慶聖人寛政九丁巳八月廿二日八十二才化

三門檜皮葺替成就本ト銅瓦葺也有故檜皮トスル

古仏堂檜皮葺更成就」

寛政九丁巳年 八十七才ニテ一円庵へ退藏閑居四

年」

八十八歳ノ祝寛政十年戊午 一円庵ニテ三ツ切本尊

ヲ出ス」

寛政十二庚申年八月六日九十才入寂」

〔註〕

(1) 十月

五十世教山院日沾上人 字教俊」

五十七世教山院日沾上人 字教俊」

身延山歴代略譜（北沢）

(43才)

下サ方田村法光寺 获久保中道寺 上依知妙傳寺」

小湊山四十二世 飯高文二百三十六世

寛政十戊午年三月廿九日小湊ヨリ入山在位一年」

院代 大隆院日勇聖人字字志 当山宗師ノ児童ナリ 三田 兼王寺歴 寛政十二庚申三月廿九日

隨身 重厚院日實聖人字原誠 在ノ坊廿八 下谷宗延寺 文政十二己丑正月六日当山ニテ化

奥院別当 教住院日慶大徳隔之房廿七世 文政五年壬午四月十二日

寛政十年三月八日入山 七月ニテ十月十九日八十一才入寂」

五十一世明静院日全上人 字完妙」

佐渡国ノ産」

江戸二本榎円心寺三十世閑居 飯高文二百四十六世

寛政十戊午年十二月五日同十一己未年二月三十日入山在位五年」

児童 智禪院日定大徳字字察志 智寂坊十一日繼ナリ 享和三癸亥七月五日

院代 智勝院日産聖人字完輪 通光寺三十三世 天保七丙申十月十八日化

同 智雄院日觀聖人字秀榮 寛政十二庚申十一月十三日

同 大翁院日現聖人山本房廿四世 当山一老隠居ナリ 文化六己巳九月十八日

隨身 了牙院」

同 智優院日領聖人字弁敷 大坂雲雷寺

七面山別当 淨妙院」

(44才)

奥院別当 教円院」

靈宝藏ノ家根ハ本ト雖カ、補皮ニ有合ノ銅瓦ヲ以テ葺ヒ之享和三年癸亥ノ夏棟札日全判形」

享和三癸亥年十一月二日 一円庵へ退蔵閑居六年」

文化五戊辰年四月六日八十三才入寂」

五十二世堅樹院日盛上人 字本考」

北総飯塚村ノ産也」

下サ籙木村妙経寺 本所本仏寺十三世 飯高文二百七十四世

七十四」

父 體如院是相日性 明和四丁亥三月三日」
母 用莊院妙飯日身 寛政元己酉六月廿八日」

師範ハ常壽院日詮聖人宝曆十三壬午九月三十日 大行院十四世

文化元甲子年三月朔日本所ヨリ入山 在位三年」

児童 榮樹丸 榮樹院日鳳聖人字本考甲府ノ産 初ハ本 佐州榮原山ノ産 安政五戊午六月十八日化

院代 玄禱院日健聖人字教誓 堀之内十九世 文政七甲申二月廿九日

同 勇進院日猛聖人字潮誓 奥津妙覚寺 文政十二己丑九月十六日

隨身 至真院」

同 教樹院日遊聖人字証教 法領房廿二世 小笠原久成寺 小笠十如院へ 天保六

乙未正月二十日化六十七才」

(44ウ)

文化三丙寅年二月十九日七十五才入寂」

五十三世上妙院日奏上人 字海雄」

川越本能寺 小湊山四十四世 飯高文二百六十六
西谷ノ上妙坊建立主」

飯高ノ上妙庵」

文化三丙寅年五月廿六日小湊ヨリ入山 在位九年」

初ノ院代 潮恩院」

次ノ院代 孝超院日登聖人字肇格
大連坊再建立主 参内ノ院代カ
勅許權律師」

〔一〕文化十一甲戌正月十三日化」

七面山別当 潮岸院日序聖人山之房廿一世
本字坊」

奥院別当 了牙院」

太平橋巾二間再建ス 文化三丙寅年十月吉日」

退分祖師堂再建立 文化四年丁卯正月日奏判形」

文化八辛未年閏八月十九日賜繪旨参内」

同十一甲戌年十月廿五日一円庵へ退藏閑居二年」

同十二乙亥年九月廿九日八十四才入寂」

〔註〕

(一) 院代緋紋ノ初ナリ

五十四世智透院日審上人 字顯厚」

院師ハ智察院願厚日純型人 三田粟王寺
隨從ハ前明院會道日還聖人 小湊三十九世 粟王寺歴」

身延山歴代略譜(北沢)

(45ウ)

京松ヶ崎文講 下サ岩部村大乘寺廿二世 飯高二
百三世」

文化十二乙亥年二月廿六日岩部ヨリ入山在位三年」

兒童 顯完院日甚法師 文政二己卯七月七日」

隨身役 智本院」

同 智善院日誦聖人 字忠鑑 本所本仏寺 奥津妙覺寺後
ニ相真院日俗ト改ム嘉永二己酉十月十五日化」

奥院別当 了樹院日正大徳 秀悦房十六世」
天保四癸巳六月十九日」

奥院題目千部執行永代」文化十一甲戌六月奏師企之同十二乙亥三
月審師代成就ス」

太平橋再掛更巾二間 文化十三丙子年八月大風雨水ニテ 損スル故
ニ再興同年冬成就」

文化十四丁丑年七月二日八十一才入寂」

五十五世潮文院日還上人 字海郁」

甲州一ノ瀬妙了寺三十世 〔一〕越後村田妙法寺」飯
高二百廿二世 京聖也〔二〕」

文化十四丁丑年九月十四日大木川支入山在位九年」
〔三〕

兒童 万壽丸 潮雛院日容法師 文政四辛巳年十一月十二日」

院代 智伸院日遠聖人 字省巳 通師ノ弟子ナリ 谷山端輪寺歴」
天保五甲午二月十三日

同 養心院日遊聖人 字宜隨 三田長運寺鎌倉本覺寺」
文政十三庚辰七月八日

(46オ)

身延山歴代略譜 (北沢)

七面山ハ蓮成院日行聖人 天保九戊戌十月十八日 額壽坊二十三世

奥院ハ潮明院日住聖人 天保六乙未十二月十六日 南尚坊二十世

同 大玄院日孝聖人 天保元庚寅十二月廿一日 門光庵十一世

古仏堂ノ祖師開帳 文政三庚寅年三月十一日 ロリ六十日間深川淨心寺ニテ

御廟八角堂本殿拜殿共回祿 文政四辛巳八月九日 夜九ツ時

永代不易 從前日千部經 文政五壬午年四月ヨリ始ル 龜頭主通師

供厨 五間半再建立 文政五壬午九月庚辰 日違判形

八角堂 三間一尺再建立 文政五年壬午十月十三日成就 日違判形

御供所ノ額ハ本妙律師ノ筆 文政五壬午九月日

眞主代々中谷へ松壽庵新建立 文政四辛巳ノ年始メ 同六年癸未年十二月成就 施主ハ江戸御本丸ノ大奥八十女ノ瀧尾女屋瀧女ニテ金百五十兩納之通師ノ出金三百兩ナリ入費 東テ四百五十兩余也通師建立ノ開基間

三大堂并諸堂回祿 文政七甲申年八月廿七日申ノ下刻 本堂

祖師堂位牌堂二天門円師堂鐘樓鼓樓二重塔」燈主

堂萬燈堂上行堂舞台并楽屋番所撰持所」作事小屋

廊下五ヶ所 一時ニ焼亡ス」

仮祖師堂 十三間 文政七年甲申年九月吉日 棟札日違判形

此堂ハ後ニ仮本堂トス又々後ニ外位牌堂トス」

過去帳拾五冊 各二日宛 文政七甲申十月日 日違判形

(47オ)

(46ウ)

(47ウ)

仮鐘堂太鼓堂仮舞台仮廊下等造之」

文政七甲申十月祖師堂同時会式前ナリ」

祖師堂再建立企之 文政八乙酉年正月十三日新初メ

壽毘院文殊之社 三間再建 文政八乙酉六月如釋珠日遷宮 棟札 日違判形

文政八乙酉年八月廿二日退蔵 中 松壽庵へ閑居六年

間」

同 十三 天保元ナリ 寅年九月廿二日九十一才入寂

〔註〕

(1) 東京板橋本壽院ニモ住居ス

(2) 越後糸魚川經王寺十六世ト

(3) 村田ヨリ歟

(4) 文政四(年)焼失へ頭註

(5) 是迄ノ一円庵ハ如何ン

(6) 文政七年火災へ頭註

五十六世太裕院日晴上人 字天中 初ハ日精ナリ 再改ノ時晴ト改ム

師範 太玄院日沼聖人 字裕恩 堀之内妙法寺 天明元辛丑十月朔日化

荻久保中道寺 山科文講 飯高二百三十四世」甲

州河内領成寓矢崎教信庵ニ閑住ス」

文政八乙酉年十月十日矢寄ヨリ入山 在位二ヶ年」

院代 太蓮院日養聖人 天保八丁酉五月二日 江戸高田苑朝院十四世

隨身役 太量院日考聖人字頌晴 實林房二十九世 天保十四癸卯三月廿日

同 太禱院日永聖人字春雲 文政十三庚寅九月八日

奥院ハ太潮院日命山之房十八世 天保四癸巳十二月廿四日

七面山ハ蓮成院日行聖人一

祖師堂専ラ普請中也

文政九丙戌年九月八日七十二才入寂

〔註〕

〔註〕

(1) 暹師代ヨリ勤統敷

(2) 因ニ記ス一ノ瀬妙了寺ハ代々中萁谷ニテ住職ノ処

文政八酉年卅五代豊心院日俊聖人谷中瑞輪寺へ移

転ス依テ晴尊前御代松和田谷ヨリ三十六代へ孝叔

日梵聖人上サヨリ尊命ヲ以テ入山スト太研院ト云

院号考フベシ

五十七世究竟院日舜上人 字義端

江戸麻布妙祝寺 京聖 飯高二百三十二世

文政十丁亥年二月廿六日妙祝寺ヨリ入山 在位一年

院代 真如院日湊聖人字通海 久ヶ原安祥寺

隨身 一真院日治聖人字巨舜 駿府盛応寺

七面山ハ蓮成院日行聖人 積善坊

身延山歴代略譜(北沢)

奥院ハ竟秀院 日舜上人直弟

祖師堂専ラ普請中也

文政十年七ヶ月八月二十日七十四才入寂

五十八世是運院日環上人 字是運

母 宝蓮院成等日尼 廿七日 運成院妙等日相 八日

師範ハ是應院日堅聖人金津妙菜寺并村田ノ歴是光院日 賢上人ノ弟子ニシテ川崎成

寺秋久保中道寺奥津妙覚寺等ノ歴飯高玄文丙隣主ナリ 天明五乙巳十一月

三日化ス

松崎村下サ也顯實寺 京鷹峰文講 谷中妙揚寺 飯

高二百三十八世

文政十丁亥年冬請待同十一戊子二月廿八日谷中ヨリ入山 在位五年

兒童 千代禱丸 是詮院日常聖人字是詮 江戸下谷山田氏ノ産

慶応二丙寅九月廿八日化 西部落合村法尊寺住ニテ化ス芝田日啓并ニ 川上法教寺望月是性ノ節匠ナリ

同 松禱丸 靈玄院日恵法師文政十三己丑五月十九日

院代 是経院日琳聖人字弁字 野呂 村田

同 是中院日考聖人字是海 関口長光寺 文政十二己丑九月廿七日

同 是幹院日登聖人字龍文 目黒正覚寺 下谷宗延寺 安政六己未七月十一日

同 雙樹院日扇聖人字智応 後ニ当山六十二代ノ山主

隨身 是山院日領聖人字忍梵 天保三辛卯二月十八日三十一才

(49オ)

(48ウ)

身延山歴代略譜 (北沢)

同 是明院日清聖人 天保九戊戌八月六日

七面山ハ蓮成院日行聖人 通略縣環四師ノ代動説 天保九戊戌七月十八日

奥院ハ了樹院日正大徳 審理河代動ル 秀悦研十六世 天保四癸巳六月十九日化

① 太平橋巾二間 文政十一戊子六月三十日大水流失 環師代 全年中ニ掛替成就

此ノ文政十一子年六月三十日ノ大風雨大水ニテ山内橋々々ノ残落ル所々大破ノ損三門常唱堂ノ附裡妙孤坊談林談合場ニ字一円庵上御町下新町ノ狐町人家敷軒流失常唱堂ノ扣病人小屋并ニ病人皆テ流死上新町ニテノ女老人流死山内諸所川除普請等致ス

東照宮ノ社五尺 同雨覆四方再建立 文政十一戊子十一月成 棟札 日環判形

② 方丈向不残焼失 文政十二己丑九月六日戌ノ中刻

五重塔飛火ニテ類焼ス

會合所大方丈小方丈經堂御真骨ノ宝藏中央拜殿ノ古仏堂奥位牌堂奥書院字間所休息所寄附ケ茶之間ノ大庫裏新土蔵御靈屋 永守社靈宝蔵ノ拜殿表門ノ長部屋通本橋廊下敷ケ所浴室不浄場敷ケ所ノ計二拾八棟ト云フ

飯厨司再建立 立六間 文政十二己丑十二月吉辰成棟札日環判形

飯對面所 四間 居間三間 二尺茶之間六間 二尺寄リ附七間半 玄

関式室 三間半 飯基場四間 番部屋二間半 會合所六十二 之

(50オ)

二夕間ナリ仮作事造立 文政十二己丑九月ヨリ天保二辛卯年秋迄ニ二追次造建 五百五十海忌動之日

奥ノ院祖師 影南石ノ七面宮 井置仏坐室等 開帳 文政十三庚寅七月十九日ヨリ 六十日間 於深川淨心寺

同祖師ノ宮殿再建 文政十三庚寅年 施主江芦芝中村ヤ平兵衛ノ母

祖師堂 本再建 落成ス 違師ノ企テ晴舞環ノ四代ヲ経テ全ク成

就 文政十三也 庚寅十一月十日上棟日環判形但シ二拾

間四面也

同祖師ノ宮殿再建 天保二辛卯四月成就四月二日御靈座ノ同三日ヨリ十二日マテ祖堂閉限千歳供養 三十四日宮

殿閉限法興勤之宮殿ノ施主大坂身延佛年參詣中ノ大仏師ハ法橋林如水作之

千金ニ及フ也 日環判形(4)

舞台 三間四方 同樂屋六間 天保二年ノ再建日環代棟札ハ日詔 判形 施主本石町八日掛(マ)中

通本橋 二一 間再建立 天保二辛卯年掛之施主ハ棟札 日環判形

栖神法窟 ノ四大字ノ額掛ル 天保二卯九月上ルフテ御政付キ 水戸從三位山納言齊昭親ノ御也

大方丈 十五間再建立 天保二辛卯十月十三日ノ棟札 日環判形 施主 松和田一谷法親中

御真骨ノ宝藏 三間半 天保二十月十三日ノ棟札 日環判形 施主 本所龜屋方兵衛

古仏堂 三間半再建 天保二辛卯五月四日弁初同十月十三日上棟札 施主 御本丸内ヤマ女 日環判形

燈主堂 三間半 萬燈室 文政十二年ノ企テ天保二辛卯年十月十三日ノ 日環判形 全ク額ハ環師ノ筆

奥ノ院御供所 二間半再建立 天保二辛卯年 施主下山村中

八角堂 常唱堂 三妙法堂 四條殿ノ各額 環師ノ筆

常在殿 宝塔 向尊 井無辺行安立行ノ二菩薩ニ 四大天王 安置

(49ウ)

ノ像 天保二辛卯年十月 日環開光ス」当国青柳
村中宝塔兩尊金五百兩 合テ八百兩也」
村中外六鉢ニテ金三百兩

宗祖五百五十遠忌 天保二辛卯 十月十三日從九月廿七日
至十月十三日

「万部經供養勤之 五十八世日環師代」

天保二辛卯年十一月廿五日松壽庵へ退藏閑居十一
年」

同十二辛丑年八月廿八日八十三才入寂」

〔註〕

(1) 文政十一年風水荒レ〈頭註〉

(2) 文政十二年大火災〈頭註〉

(3) 本年九月廿二日五十五代日環上人松壽庵ニテ九十
一才遷化 又タ因ニ記ス妙了寺卅六世太研院日梵

ハ燒失後ヨリ登山普請方作事奉行在勤ト

(4) 普請方妙了寺太研院日梵本年五月十二日遷化ニ付
真應院日源上サ福益村本念寺ヨリ三十七世へ入寺

ス依テ是真院日感ト改名ス貫主ノ門弟トナル故也
本年九月住職入寺十月五百五十遠忌初登山大會勤

1

五十九世圓中院日詔上人 字海鍊」

佐野妙頭寺 飯高文三三六十八
文三百四十四世 小湊山四十八世」

身延山歴代略譜 (北沢)

(51オ) 天保三壬辰年二月廿八日小湊ヨリ入山 在位三年」
兒童 梅壽丸 字海等」

同 福壽丸 英中院日孔聖人字海住甲府近藤氏ノ裔
三十一才化大蓮坊十三世嘉

水四辛亥四月卅日」

院代 遠壽院日受聖人字存立谷中延壽寺 長坂大長寺
白銀寛林寺

同 頭中院日方聖人嘉永二酉年二月廿三日
本所妙源寺佐野妙頭寺

隨身 司中院日瞻聖人字鍊孝橋場長昌寺申橋妙像寺
妙院日衆ト改ム

七面山ハ蓮成院日行聖人遠崎縣藤原ノ五代勤之
天保九戊戌七月十八日

同 智登院 兩楯村正徳寺

奥位牌堂三間再建 天保三壬辰十月棟札 日詔判形」
施主 救来石宿河西六郎平

通本ノ廊下二間再建 天保三壬辰十月棟札 日詔判形」
施主 当徳町中

天保四巳年日詔師御代三ヶ寺辨紋身附也妙了寺ハ日感長遠寺ハ日感」
遠光寺ハ日詔師ナリ(1)

舞台ハ環師御代再建立也天保五甲午年四月吉辰 本石町八日棟中」
登山上棟ス 棟札日詔判形

天保五甲午年六月廿六日七十一才入寂」

〔註〕

(1) 「天保四巳年」より「日詔師ナリ」は朱字書入れ
である。

(51ウ)

六十世一雨院日潤上人 字雪川」

京満願寺 御庵 飯高文三三九十七
文三百五十五 尾州日比津定徳

身延山歴代略譜 (北沢)

寺ヨリ

天保五 甲午年 請待同六乙未 二月廿六日 入 山 在位四年

兒童 榮壽丸 詔潤心ノ三代勤ル(1)

院代 相壽院日誠聖人 字誓漢 教許律師 下谷宗延寺 嘉永五壬子七月十一日

隨身 真讓院日融聖人 教許律師 日比律常徳寺 万延元庚申三月十二日

七面山ハ智性院日邁聖人 天保十二辛丑正月朔日 門御坊二十世

奥院ハ 恵快院日了大徳 天保八丁酉十一月廿七日 東之坊二十一世

同 是泰院日琳贈聖 天保十二辛丑九月十七日 五十才 本行房三十四世

小方丈九間⁽²⁾再建立 天保六乙未年冬企之同七丙申年二月成就 施主ハ森米村小林小太郎 柳札日潤判形

大方便⁽²⁾再建 今般造作并唐門玄関再建立令成就之 大方便ヨリ外位講堂へ廊下 厨間ヨリ水鳴樓へ廊下掛之 天保七年丙申春二月吉日 横札日潤判形

松平左京大夫頼學殿御參詣 天保七丙申二月 天保八丁酉年七月十九日ヨリ日延共七十日間於深川浄心寺

天拜ノ祖師本社七面宮靈仏靈宝等開帳 天保八丁酉

大坂巡説 三十六日ノ番 天保九戊戌年廿五ヶ寺并ニ 新寺迄御名代京妙伝寺日禱師勤ル

中國西国四国九州巡説 天保九十一ノ三ヶ年間 名代日奉勤之

宝珠殿⁽⁷⁾之額 萬燈額 長明室額 潤師ノ筆

天保九 戊戌年閏四月七日八十才入寂

夢中の歌 月影にのほれるわしのたかねまでみろひきたまへ見る遊那ほと

け

(註)

(1) 心師ノ下へ出ス

(2) 水鳴樓ト云フ歟

六十一世智了院日心上人 字泰忍

一ノ瀬妙了寺三十三世 飯高二百五十六世

京聖也 武州川越本應寺ヨリ(2)

天保九 戊戌年十月九日入山 在位五年

兒童 榮壽丸 泰榮院日了學士 心師弟子ナル 下今井村ノ 天保十一庚子四月十五日十

七才

松壽丸 泰常院日雄大徳 心師ノ弟子ナル 下今井村ノ 己酉八月十二日

兒童 竹壽丸

千壽丸 上市ノ瀬村ノ産育柳定兵衛ノ長男ナリ

院代 本立院日真聖人 字海慈 江戸原町幸國寺

同 慈謙院日義聖人 字天保十二辛丑九月廿四日 武州星川法性寺

同 文義院日登聖人 字海都 谷中盛王寺

隨身 智円院日登聖人 字泰忍 麻布法雲寺 浅草妙福寺 長坂大長寺 嘉永五壬子十月十九日

七面山ハ智等院日禱聖人 笹走本妙寺

奥院ハ本持院日定贈聖安政六己未^{文殊房十七世}九月二日

二天門持国毘沙門二大像 天保十己亥六月日心師開光 芝中村ヤ
成田東運之作

平兵衛母イメ女納ル 但シ文政十三己亥年ニハ彌師代奥院ノ祖師宮
殿ヲ納ル殊見合ヘシニ天門建立マテ祖師ニ安置ス

本堂再建之企テ 天保十一庚子正月十三日 日心判形

祖師石ノ大水鉢并兩屋天保十己亥十月一式 心師代
堂前石ノ内惣金柱金極彩色金張付花天井須弥壇金 白檀

板ノ間ハ樑ノトキ出シ塗卷式 施主池田本覺寺歴

本壽院日行聖人古金小判三百兩納ル 天保十一庚子

年

二重寶塔三間一尺再建ノ企テ 天保十二辛丑年三月

円師堂三間半再建立 天保十二辛丑年九月 日心判形

天保十三壬寅年三月九日七十五才入寂

〔註〕

(1) 秀岸院日心有之故ニ該山住職中ハ真ト云フ

(2) 天保九年 妙了寺ニテ請待式

(3) 詔潤心ノ三代勳ル

(4) 心爾闕ノ三代勳ル

(5) 後チ闕師ノ下ヘ出ス

六十二世雙樹院日扇上人 字智應

身延山歴代略譜(北沢)

越後國ノ産

師範ハ智應院日慶聖人字智元 飯高文隣

越後柏崎福泉寺歴 飯高二百七十八世 京聖東山文

講 三州崎崎丸山長徳寺鹿地之寺ヲ再興ノ開基ス同寺ヨリ晋山ス

天保十三壬寅年(一)五月廿七日入山 在位三年

院代 妙信院日法聖人字聖中 三田聚王寺

隨身 太彦院日等聖人日勝上人ノ弟子 北之阿廿世 当山四老

七面山ハ妙應院日真聖人字頭山 藤田村妙行寺(4) 東郡小石和村蓮長寺(住職)(6)後チ

奥院ハ是諦院日研聖人字是諦 總行院ト改古妙行寺

闕師ノ弟子ニ是總智等ノ兩人任隨身ニ來ル是諦ハ後ニ谷中妙行寺ニ

外ノ位牌堂家根替柿板葺 天保十三寅十二月企之同十四癸卯ノ

二重ノ塔地形柱立ノ事 天保十四癸卯年十月 素立迄

祖師堂惣朱塗り金具成就 天保十五甲辰春

利女堂檜皮葺更 別時御釋所柱二本入新冠 扇師代

天保十五甲辰 正月四日七十二才入寂

〔註〕

(1) 一ノ瀬妙了寺ニテ請待式

(2) 「妙心院」を「妙信院」と訂正

(3) 後チ薪師ノ御代院代再勳ス

身延山歴代略譜 (北沢)

- (4) トアリ仙應寺ナルベシ
- (5) 妙了寺日感聖人ノ門弟ニシテ願山院ト云フ浅原村柴田覚平ノ師匠ナリ
- (6) 隱居シテ上方筋ヘ行キ住化
- (7) 一ノ瀬妙了寺永代松和田谷ニテ法類相統許可免狀大本尊御授与之事日厨(上) 人代天保十三寅年也該寺ハ三十七世日感代ナリ
- (8) 「十」を「十五」と訂正

(54ウ)

六十三世一乘院日闍上人 字観具一

房州加茂日運寺 大坂雲雷寺 池田本覚寺 小湊

飯高文四百六十六世

弘化元甲辰 四月小湊ヨリ入山 在位二年一

児童 竹壽丸字観成(一)

全 千壽丸字観正(一) (3) 下市ノ七宗林寺大師了泉寺

後チ真恭院日利上人本願ト改ム 明治五壬申三月十二日化

院代 本敬院日禎聖人字貞静 下谷中尊性寺 小湊ヘ入山

隨身 大千院日観聖人字観玄 安政二乙卯九月廿六日 小湊ノ妙蓮寺

七面山ハ中應院日運聖人敬善坊廿四世 嘉永五壬子七月廿日

二重塔屋根并造作 弘化元甲辰 ヨリ同一乙巳年

弘化二乙巳年二月十五日七十七才入寂

(註)

- (1) 心扇闍ノ三代勅
 - (2) 改テ願感ト云
 - (3) 児ニ登山ノ砌リ妙了寺日感ノ弟子分トナリ法名願哲ト授リ其後山本坊ノ弟子ナル由シ日勸師代取戻シ願感ト云フ
 - (4) 櫻田願本 音羽真勇院ノ師匠ナリ
- 六十四世不老院日仲上人日中ト云フ 字要順一
- 下サ国安久山村木下氏ノ産一

父 願感院良遠日願 文政四辛巳七月廿七日

母 追尊院妙長日願 文化十三丙子七月十八日

師範ヘ専心院日恪聖人字願要 堤方妙聖寺 小湊ノ妙蓮寺 文政八丁酉正月十一日八十二才

飯高文四百六十七世

弘化二乙巳年七月五日村田ヨリ入山在位二年一

院代 妙守院日護聖人字要順 高田延朝院ノ十六世 明治五壬申九月廿三日 竹鼻ニテ化ス

隨身 妙智院日恵聖人字要教 浅草妙福寺 文久二壬戌八月九日

同 妙衣院日忍聖人字月松 当山仲親后忍聖蓮金寺 禪師ノ院代 当山仲親后忍聖蓮金寺

七面山ハ是諦院日研聖人(2) 谷中妙行寺 慶応元乙丑九月十日五十六才

奥院ハ妙禪院日輝聖人小田原清光寺牛込常立寺 慶応元乙丑十二月廿六日

児童 松野九各江戸ノ産 仲桂新ノ三代勤ル

(55ウ)

(55オ)

波木井円師五百五十遠忌

弘化三丙午年九月廿五日正當ノ処ニ月廿四五法用勅之弘化三年丙午二月

南郡八ノ戸券六郎殿ヨリ代参米ル廿四五兩日代香故ニ取越執行候也

七面山開闢五百五十年ノ嘉会

弘化三丙午九月神事執行

七面山永代不易千部経読誦始之

毎年九月從十日至十九日マテ弘化三丙午年ヨリ

二重塔九輪成就

弘化三丙午年十月吉祥日心願仲ノ四代ニテ成就棟札日仲判形

妙法大善神堂三間半

田代ノ社也弘化三丙午年十月上棟札日仲判形別當ハ願徳日光

弘化三丙午年十二月廿三日七十三才入寂

〔註〕

(1) 西郡有野村矢崎丈右衛門ヨリ出家ス

(2) 扇師代奥院ニ

六十五世普恬院日桂上人 字通寛

師範 可円院日理聖人字通寛

信州飯田長源寺 京東山文講 飯高二百七十七世

弘化四丁未年四月飯田ヨリ入山 在位七ヶ月

児童 松壽丸各江戸産

松壽丸各江戸産

院代 一真院日治聖人字巨舜 靜岡盛志寺 明治十三庚辰八月三十日八十四才

隨身 恬中院日懿聖人字通寛 甲府清蓮寺 安政五戊午九月二日

七面山ハ海運院日瑞聖人南之房三十一世 妙福房ハ閑居 安政三丙辰十一月十五日

身延山歴代略譜(北沢)

奥院ハ以順院日信聖人本妙坊六世 運泉坊五世 嘉永六癸丑正月二十二日

御即位御祈禱御撫物御降 弘化四丁未 八月十七日

ヨリ廿三日迄一七日間祈禱堂ハ出仕勤之

弘化四年十月三日七十七才入寂

六十六世示宣院日薪上人初ハ日持ト云フ 字顯説 入山ノ時改新

当国大柵村ノ産今ハ深沢友左衛門ト云フ

父 能性院成信日顯 文化二乙丑三月廿八日 七十四才

母 能成院妙信日顯 寛政四丁未六月四日 五十一才

師範ハ顯持院日俊聖人西谷岸 落居村本照寺 文化二乙丑閏八月十六日

甲州今飯助村久本寺 上八田妙長寺産京山科文講 飯高二百八十九世

弘化四丁未年十二月四日上八田妙長寺ヨリ入山在位

八年

児童 松壽丸御弟子 甲州中ノ常仙寺鳥屋永立寺駒場湯沢 字顯又光ハ要松尾

等

同 鶴壽丸全 字顯益 妙要院日勤法師 明治十六癸未五月三十一日

院代 機扣院日宜聖人字教忠 西条妙源寺 黒沢妙覚寺十七世 飯高文講 明治元戊辰九月十四日八十二才

全 妙信院日彰聖人字取中 三田聚王寺 越后村田下谷宗 延寺飯高兩院主一 秘許檀信師村撰 衆表ナリ

隨身 顯光院日灌聖人字泰忠 岡崎門領寺

隨身 顯光院日灌聖人字泰忠 岡崎門領寺

身延山歴代略譜 (北沢)

全 顯正院日光聖人字顯修 甲州高砂村円字寺 明治四辛未七月十七日

七面山ハ嶺門院日報聖人一老願居大林房廿八世 安政三丙辰四月十五日六十才

奥院ハ初ハ太教院日清ニハ智玄院日は三八寛妙院

日述

外位牌堂之釈迦尊像再興弘化五戊申四月九日ヨリ開眼為供養 并三丈六尺之釈迦尊像再興 千部羅執行 日新開光

小方丈柿板葺替 弘化五 戊申年十月吉日

通本橋回廊柿板葺替 全 十二月吉日

夏鐘堂柿板葺替新師ノ嘉永改元申年十二月吉日 日新開光

朝師堂檜皮葺嘉永二酉年六月成就 行学院日代 日新開光

日朝上人三百五拾遠忌嘉永二酉年六月 一七日ノ間千部羅勤之 法会執行

奥ノ院祖師 并ニ 影現七面天女靈仏靈宝等開帳

嘉永二 己酉 七月十九日ヨリ六十日間於深川浄心寺

薪師代

鼓樓三間半 四方(3) 嘉永二酉九月薪師代企之 本所深川惣

講中

千體仏像再興嘉永二酉年八月於深川開帳中一體ツノ施主ヲ 額ミ造之 日新開光

大方丈土瓦葺更嘉永三庚戌八月成就 金三百兩薪師自替請也 日新開光

釈尊二千八百遠忌嘉永四辛亥二月十五日 大報恩会供養勤之 日新開光

一切経并経蔵三間四間再建立 嘉永四辛亥十月十三日棟札 傳 日新開光

大士普成普建唐金宝塔

(58才)

丈六釈尊像衣更蓮華座 石座新キ 嘉永四辛亥二月十五日 二千八百遠忌供養

本地塔二間四方再建立(4) 全五壬子三月廿八日 上棟同日開堂供養 日新開光

本化上行之像再興嘉永五壬子三月廿八日 薪師開光 施主大僧都日住聖人

古仏堂替地下ノ段ヨリ引移ス嘉永五壬子四月 施主神奈川中山又之助

壽量院ノ社土瓦葺替嘉永五壬子九月日 日新開光 本堂外像一丈ツ、也 嘉永三庚戌十月十一日柱立 同四辛亥年十一月十日 日上棟同五壬子七月七日入仏供養 棟札日新開光

二天門八間再建立(5) 同六癸丑年三月十六日 柱立同年十二月成就 日新開光

御真骨ノ宝蔵銅瓦并壁上塗り成就(6) 嘉永六癸丑年 成就

同中央三間半廊下二間半拜殿六間半再建立施主尾州 惣持中

五重塔三間四方再建立企之嘉永六癸丑四月八日釘初メ 同六月廿六日地形初メ

興師堂三間半再建立嘉永六丑年九月七日成就 日新開光 林謙坊日代

上ノ山大黒堂檜皮葺替嘉永六丑年九月廿六日 日新開光 大光庵日代

八幡宮拜殿五間ニ三間再建立 嘉永六癸丑十二月二日上棟 日新開光 施主山内道徳中

奥位牌堂土瓦葺替 嘉永七寅年二月成就

本堂之上行浄行両菩薩ノ像嘉永七寅年春再興ヘシ 薪師開 施主大坂年參放生兩講

光

嘉永七^{甲寅}年二月十一日七十七才入寂

〔註〕

- (1) 仲桂新ノ三代勤ル
- (2) 但シ頼師ノ御代ハ日法ト云フ
但シ頼師ノ御代ハ日影ナリ
- (3) 「四間」を「四方」と訂正。
- (4) 嘉永二^{己酉}正月企之
- (5) 嘉永二^{己酉}九月企之
- (6) 弘化三^{丙午}仲師代企之
- (7) 古仏堂引地シ其跡ヘ此位牌堂ヲ引山^{ト云}シ頭註
- (8) 去ル天保二年十月環師御代青柳村諸尊彫刻納ルニ
サ^ササ^ササ^サ不足故ニ今回納ルト見ヘタリ

六十七世智鏡院日楹上人 字旭芳

越後国之産鉢崎ナリ上輪村妙果寺ノ楹中ナリ

師範ハ遠来院日衷聖人飯高兩傳主 村田妙法寺 文化六己巳五月廿五日

江戸原町幸国寺 ① 小湊山 京聖 飯高二百九

十八世

嘉永七^{甲寅}年六月六日小湊ヨリ入山 在位五年

② 児童 龜壽丸 顯禪院日長法師江戸ノ産 頼師ノ弟子分 嘉永七^{甲寅}九月廿九日

③ 同 幸壽丸 江戸産 楳師ノ弟子 字一登 乙壽丸 甲府ノ産 楳 字旭運

身延山歴代略譜(北沢)

師ノ弟子

院代 智禪院日顯聖人字旭遠 足尾本妙寺 安政三^{丙辰}十二月廿五日

同 妙音院日聲聖人字高忍 天津日蓮寺 谷中端輪寺 慶応四^{戊辰}五月十二日

隨身 體妙院③日信聖人字旭芳 飯高山 明治四^{辛未}十二月朔日

七面山ハ静養院日勝聖人字一遠 天津日蓮寺 村田妙法寺 定林房廿六世 慶応四^{戊辰}六月廿一日

奥院ハ智静院日如聖人慶應四^{戊辰}六月廿一日 應供坊十五世 明治八^{乙亥}十一月三日

同 潮旭院日登聖人應供坊十五世 明治八^{乙亥}十一月三日

嘉永七^{甲寅}年八月廿五日賜綸旨同廿九日参内

御^中兵骨古作之持国毘沙門天王ノ二像 天長年中定

朝作 嘉永七^{甲寅}九月 楳師代

本堂金燈籠一対 嘉永七^{甲寅}十月 泉州堺中村富十郎納之油料金三十兩

舞台土瓦葺更 嘉永七^{甲寅}十月吉辰日楹形判

大地震 嘉永七^{甲寅}年十一月四日辰ノ下刻諸田備死多ク山内モ 七人ア 日所大破損通本ヨリ東谷ヘ大破西谷小破損ス 日楹上人参内 御婚路同中諸所御巡教中ノ御妙寺ニテ布教一ノ功リ 付直ニ御婚山也

奥ノ院之庫裏再建 右 災 嘉永七^{甲寅}年企之 二付皆没 同安政二^{乙卯}年三月成就 日楹半形

新土蔵三間半造立 安政二年乙卯 十月日日楹形

永守社一尺五寸雨覆九尺再建立 安政三^{丙辰}二月初午日 日楹判形

裏門檜皮葺更 安政三^{丙辰}年二月廿八日日楹判形

祖師堂ノ人蓋三間四方再興 榎木^④中ヘ依頼ス 安政三

(59ウ)

(59オ)

身延山歴代略譜 (北沢)

辰年三月廿八日 棟札日楹判形」

御其骨而實不滅度ノ額 村雲路正 文院日尊尼官ノ筆」
拜殿ノ内日深日楹金五十兩納 安政三丙辰六月彫刻

相輪塔 去ル寅年震災ス依之下ノ古地ヨリノ光堂前ヘ引移シ再」
建施主ハ堀之内日深日楹金五十兩納 安政三辰年

金仏ノ釈尊 右震災罹ル 御院代日願節自分有志ニテ修復ス」
安政三丙辰年

法久庵上ノ山ナリノ額 楹師ノ筆」

本盛文殊普賢ノ二像 安政四丁巳正月 楹師開光判形」
大坂年參放生ノ兩神主ナリ」

古仏堂ノ祖師 天祥七面天 開帳 安政四丁巳七月十九日ヨリ」六十日
間於深川淨心寺」

唐本一切経 傳大士像 共 安政四丁未八月良辰谷中領支寺ヨリ納之」
廿成普建

門前金ノ大水鉢 一對 安政四丁巳年九月 楹師代」
釘鋼鉄問屋中納之

一切経藏 (5) 大地震破損ス依之復舊更四方ノ庇行道」
楹師下新造安政五戊午九月 日楹判形

二重塔 鋼瓦家根ニ改葺之并敷造作令周備也 日楹判形」
安政五戊午十月十三日

惣門檜皮葺更 安政五戊午十一月首辰 日楹判形」
施主小林小太郎金五十兩納

五重塔 (6) 安政三丙辰四月八日柱立 日楹判形」
同五戊午年十二月 三重マテ組建之刻納之

奥書院學問所休息所三ヶ所合ニ棟ト再建立」安政三丙
辰年秋企之同年十二月吉辰上棟日楹判形 同六年」

己未年三月全成就」

安政五戊午年十二月廿九日七十九才入寂」

(60ウ)

〔註〕

(1) 川越本願寺

(2) 新楹ニ代動ル

(3) (日) 遊ト

(4) 去ル嘉永二己酉春日新上人御代

(5) 薪師代建立

(6) 薪師代新始メ地形取り畧

六十八世慈祥院日實上人 字友貞」

泉州堺ノ産」

師範ハ妙境院日研聖人 堀之内妙法寺 奥書抄覽等」
文化四丁卯十一月十五日

上総木戸妙久寺 京岡崎満願寺 飯高 文二百九十三世」
安政六己未年京岡崎ヨリ 四月廿六日入山在位二年」

兒童 誠壽丸 甲府ノ産 教俊日貞 (3)」

同 秀壽丸 甲府ノ産 楹史孫三師ニ動 文久二壬戌九月六日」
孫師ノ弟子 立秀日栄

院代 永壽院日等聖人 字教雨 尾州田原寺 シナ常光寺」
明治九丙子五月十二日

同 戒修院日確聖人 字教印 浅岡玉泉寺 慶応四戊辰閏四月十五日」

隨身 厚澗院日曼聖人 字教忠 土州要法寺」

七面山ハ寛厚院日容聖人 字教津 上サ奥津ノ正福寺住ヨリ動
後ニ京大黒町延寿寺 長崎本蓮寺」

(5)」

(61オ)

奥院ハ是教院日良聖人明徳十四年己未八月十八日六十二才
二重塔ノ諸尊入仏供養 安政六年己未 日実判形

影 現本社幣殿拜殿檜皮葺替并惣修復成就

安政六己未年八月十九日 日実判形

通本橋震災大損惣修復 右同断 日実判形

一切経藏ハ研徳兩代ニ成就 目錄金千五百七十五両也 安政七庚申年
酒屋中納言令殿上棟 万延元庚申年

四月二日吉辰 日実判形

太鼓堂ハ新御代企之祖物形彫刻而海上翔ッ山岩ニ 安政七改万延元庚
申年正月十三日新初ノ三月廿七日 柱立同六月上并成就ス太鼓

入堂ハ同年十二月五日甲子ノ 棟札ハ万延元年 庚申 六月吉辰
吉辰ニ付九ツ時ヨリ打初也

日実判形

帝釈堂三間半再建立 万延元庚申九月庚申日 日実判形
本行坊日行造立之

円師堂震災ニ付惣修復 万延元庚申年 日実判形

堂前之兩家根土瓦 棟板葺ナリ改テ為土瓦 日実判形
万延元庚申十月

五重塔再建成就之棟札 万延元庚申年九月癸酉 同年十一月十日
日上海邊一座之物リ納之但シ五重塔ハ新

師代企之権師実部ノ三代ニテ
全成就ス 日実判形

万延元 庚申 年十一月四日八十三才入寂

〔註〕

(1) 一ノ瀬妙了寺ニテ請待式

(2) 「三」を「二」と訂正。

身延山歴代略譜 (北沢)

(61ウ)

(3) 「上条法光寺」歴。

(4) 「観」を「寛」と訂正。

(5) 此時キノ随従ニ鶺川日行 後ニ浅草玉泉寺内房本
成寺 友 後ニ切石正傳寺へ住死

六十九世事感院日琢上人 字宣慶

甲州東南胡村之産也

師範ハ事玄院日祥聖人 字宣慶 同東南胡村ノ産 長久寺歴
一ノ瀬妙了寺三十二世 四十八才化

東南胡長久寺歴 京山科文講 飯高三百二世 佐

野妙顯寺ノ一準歴 小湊山ヨリ

萬延元 庚申 年十二月八日 同十二日入山在位五年

兒童 政壽丸 弟子宣會日顯

同 龜壽丸 弟子宣楨 甲府ノ産 塚祥兩代勤ル

院代 智心院日定聖人 字大忍 觀者ナリ 牛込幸四寺ノ文久二
壬戌七月七日化 弟ニテ遠隔ト云フ院
代中病死ニ付昌福寺(葬ル)歿

同 智進院日慈聖人 字善忍 歿許權律師 高田

同 潮松院日逾聖人 字海都 元ト感応坊住 河西村法界
寺住ニテ 明治十六年癸未八月廿七日化

同 隨身 事妙院日琮聖人 字立 四ツ谷妙行寺
八十四才

七面山ハ見如院日輝聖人 字久四 甲子三月十九日

遺州北鹿嶋村住持寺

遺州北鹿嶋村住持寺

身延山歴代略譜（北沢）

奥院ハ智啓院日明聖人 文久三癸亥三月廿一日清木房 大慶房五十五才

同 顯隆院日勢聖人 正行寺ニテ化 明治十五年四月廿一日南阿坊 觀切 志摩房 緒根村

五十八才

古仏堂柿板葺替成就 文久二壬戌三月下旬 日琢判形

奥ノ院祖師 天拜七面宮開帳 文久三癸亥七月十九日ヨリ六十日開 於深川淨心寺

久遠寺ノ額 文久三癸亥八月開帳中施主日本橋十三日辨中間部下棧守陸勝卿ノ筆 孫師代

清正堂再建 文久四甲子正月吉辰成就棟札日琢判形四開半 同年二月廿日山火災ニテ焼失又再建金之

二天門成就 元治元甲子年六月十七日上棟 棟札日琢判形同十八日三尊遷座心師ノ開光ナリ

五百大阿羅漢之像 日琢師ノ開光判形 施主江戸太田嘉右衛門

奥二王門 惣修復柿板葺替孫師代金之 棟札日祥判形祥師代成就 慶応二丙寅三月廿七日

元治元 甲子年七月三日八十才入寂

〔註〕

(一) 字の記載が不完全である。

七十世止明院日祥上人 初ハ日祥 改祥 字顯鶴

越後国田家村ノ産

父 登山院宗善日只 寛政四壬子十月二日

母 圓法院妙本日喜 文化七庚午四月廿七日

次ノ師ハ智明院日了聖人 字顯可ケ谷法明寺三十五世

(63才)

京山科文講 京妙傳寺日湖上人御代天保九庚午大坂慈説ノ御飯高三百四世關唐ス夫 ヨリ入山

元治元 甲子年布施村妙泉寺十月二日入山 在位七年

児童 万壽丸江戸ノ産 顯鏡日明

同 菊壽丸江戸ノ産 内藤氏 本祥日鏡

同 鶴壽丸江戸ノ産 鮮明院日昇法師 慶元乙丑六月

院代 妙衣院日忍聖人 字月松 越后辺野蓮念寺 甲州ノ布施妙泉寺廿四世 松和田谷ノ祖 当山仲新阿

同 順妙院日惠聖人 字泰心 下小松崎村顯奕寺 辺見日野春僧都 明治八乙亥七月十七日七十四才ニテ化ス

同 隨身 觀樹院日明聖人 字本考 布施妙泉寺廿五世鬼船妙現寺(葬ル)妙了寺四十三世日如回向ス

七面山ハ是諦院日研聖人 慶元乙丑九月十日 五十六才谷中妙行寺

同 大善院日大聖人 一老 隱居 明治十五壬午三月居ンテ化ス 廿六日 八十一才

奥院ハ誠壽院日順聖人 慶元乙丑九月十九日成就端場坊四十一世 四十七才

七面山ノ拜殿向拝檜皮葺更 慶元乙丑九月十九日成就日祥判形

三門類焼ス 慶應元乙丑十二月十四日昼四ツ半時ヨリ中谷仙墓坊ヨリ出火 円墓坊 山本坊 松井

坊 惠善坊 竹之房 定林房 樋沢坊 了源坊

至言坊 南之坊 法雲坊」正運坊 本学坊 涼池坊 常経坊 常唱堂 同别当寮」天神社 太子堂 三夜堂 妙翁社 妙見堂 松尾社」二王尊ノ供所 東テ小堂八ヶ所 支院十七ヶ所 拟テ」上町中町 上新町横町片隈町下町塩谷坪屋ニテ火止マル

仮リ二王門建立 慶応二丙寅年八月七日日祥判形

舞臺 地震災地形固ノ修補又々四本柱ニテ土瓦故重ク桁垂ル」明治

元 戊辰 十月吉辰日祥判形

明治三 庚午 年七月八日久遠寺住持職賜三宣旨」全十一日

東京御所参内」

奥ノ院鐘堂地盤皆潰レニ付再建立 明治三乙丑五月九日新初ノ日祥判形 燈主堂柿板葺替成就 明治三 庚午 年十月十三日日祥

判形」

同 三年十一月七日退蔵ス 西谷本領坊(四居三年ト)

明治四未年春為ニ御療養ニ東京雜司ヶ谷法明寺へ御 越シ夫ヨリ生国」越後へ師親ノ廟参ニ御越シ御滯

在同五 壬申 六月九日津妙蓮」寺ニテ御遷化奉ニ 火葬」七月九日法明」寺へ着同八月十九日全ク当

山へ御着九月二日全骨拜礼同日」御本葬也」

明治五 壬申 年六月九日八十六才入寂」

身延山歴代略譜(北沢)

〔註〕

- (1) 琢祥兩代勤ル
- (2) 祥師(「代勤ル」の意ならん。)
- (3) 扇師代ハ奥ノ院ヲ勤ル尤モ御弟子ニテ随従来ル仲 祥兩代ハ七面山別当也
- (4) 慶應之火灾(へ頭註)
- (5) 戊辰ノ乱年上野戰爭年ナリ維新ノ改革命ナリ
- (6) 実ハ翌年春御出京ナリ
- (7) 実ハ田家村妙本寺ニテ示寂ノ由シ

七十一世智現院日禱上人 初ハト 字壽忍」

当国西郡戸田村ノ産」

片瀬休墓寺 白銀妙円寺 長坂大長寺 小湊山」 京東山文講 飯高三百廿七世」

明治三 庚午 十一月十五日請待十二月三日小湊ヨリ入山 在位 二ヶ年」

院代 智殿院日理上人 字寿忍 四ツ谷円通寺 長坂大長寺」

同 智順院日逗聖人 字泰忍 南ノ房卅三世 竹之坊三十二世」

隨身 智定院日逗聖人 字惠忍 甲州於曾村妙壽寺」

七面山ハ智逗院日照聖人 字舜存 西谷先哲 大乗坊三十三世」

奥院ハ円明院日感聖人 字是忍 常樂坊 本行原四十世」

小庫裏ヲ作り 大庫裏ハ修復ノ会式等ニ用之 平常ハ用小庫裏ヲ發音味喃倉等折ニ造之」

身延山歴代略譜 (北沢)

奥書院柿板葺替之 明治四 辛未 歳日禱判形」

明治四 辛未 年三月七日 久遠寺住持殿 賜三宣言 同十四日参

内」也御出京御参内相済 船路ニテ御是化ノ由也」

厨司惣修復 明治四 辛未 年五月成就日禱師代」

外位牌堂柿板葺替 全 明治四辛未年春禱師代企之 全 五壬申十二月健師代成就」

明治四 辛未 四月十八日八十一歳入寂 災ハ在位五ヶ月歿」

七十二世獅音院日健上人 教部名殿政 二付任大教正 字光運」

丹波国福知山ノ産北風氏」

師範ハ重厚院日實聖人 字順誠 籍之坊廿八世 下谷宗延寺歴」

谷中信行寺 丹波福知山常昌寺 洗足御松庵ニ閑

住 奥津」妙覚寺歴 飯高文五百二十世」

明治四 辛未 九月十六日 十月朔日 上ノ奥津在位四年」

院代 體遵院日球聖人 字陰玉 晋山千駄ヶ谷仙寿院住 後三階僧ノ上飯高寺ノ住名ヲ荷テ」

隨身 醉厚院日康聖人 字教順 絳巻常在寺 依知妙純寺歴」 三ノ輪真我寺 下谷宗延寺 二 三月十三日化」

奥ハ当山七十四世吉川日隆上人ノ内弟ナリ 姓ハ福重明治廿一年 二月十三日化」

七面山 八十六世 再 太善院日大聖人 号之房三十七世 一老隠居ナ 明治十五年三月廿六日 八

十一才」

別院 円明院日感聖人 本行房四十世 明治廿六(6)」

(65才)

(65ウ)

(66才)

明治五 壬申 三月五日 久遠寺住持殿 於三甲府城ニ賜宣言」

全年教部省被設諸宗大山 取京ニ呼出ニ付 健師出京」

全 四月廿八日 權少教正賜宣言同日参内」

全 六月十三日 大教正賜宣言同日参内」

奥ノ院祖師 影現七面天開帳 明治五 壬申 五月十五日ヨ

リ」三十日之間五日ノ日延アリ於深川浄心寺修行

冥主在京ナリ院代」 日球着發込等勤ル」

燈主堂土瓦ニ改メ葺更 撤師代轉台ノ古瓦ヲ以テ葺之不足ハ 明治五年二月三日即 新規ヲ加ル 明治五壬申十一月 日健判形」

明治六年一月一日ト改リ 大陽曆ト改ル也 未曾有之大改 正也」

大坂巡説 三十六年 殿遠三尾邊勢京御巡説教 明治六癸酉二月ヨリ至七月 健師代」

宗祖神應 釈迦堂修復柿板葺更 明治六癸酉 二月日 日健判形」

清正堂四方再建立 元治元甲子年二月廿日山火事ニテ新堂燒失 六十九代日孫上人御代ナリ 又直ニ再建ヲ企ル」

同二月廿三日 新初メ今明治六 癸酉 二月廿日成就上

棟日健判形」

発軫祖師堂修復 家根茅葺成就日健判形」 開關六百

年ニ相当ル明治六年 癸酉 三月十七日」

当山開關六百年之嘉会 明治六癸酉從六月十日至十九日」十ヶ日 〆間子部法用師師大夜御巡教中ニ付僧州 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百」

上田本場寺 祐節一勢之」

鼓樓屋根更 明治六 癸酉 六月十六日 棟札日健判形」

外位牌堂柿板葺替成就 （8）
醫師代金之 醫師代成就

并ニ内外壁塗り替 （9）
行道後ノ下成就 日健代」明治七 甲戌
ハハラ石敷

年二月吉辰（10）」

小方丈本（本）也土瓦新規葺替 （11）
明治七年甲戌 日健判形」
四月八日

奥院ノ祖師堂并廊下拜殿共修復并家根更等」

明治六年 癸酉 十一月八日上棟昨申ノ歳東京開帳ノ

有志ヲ」以テ修造之 大教正日健判形」

支院拾三ヶ坊（12）
明治七年甲戌年一月ノ下
句右ハ寺跡書上ノ際
無間ニシテ無住ト
書上候故也（12）」

明治七年 甲戌 四月廿四日退蔵西谷本種坊へ閑居廿九ヶ

日ト」

全 五月廿二日八十四才入寂」

〔註〕

- (1) 五十三世ト
- (2) 里見(氏)
- (3) 福重(氏)
- (4) 祥健兩代勤ル
- (5) 禪健兩代勤ル
- (6) 遷化年号か。
- (7) 上東御名代一真院日治聖人駿府盛茂寺歴
学頭トシテ出京 文嘉 誠研 泰山

身延山歴代略譜(北沢)

侍従トシテ 吉田日昇 伊奈日要

各上京御名代ナリ後チ御自身モ出京ス （頭註）
明治七年二月迄カ

(8) 記載順の違う旨記してある。本来66丁裏にあり。

註(10) 往見。指定順に随い本文に記入した(前

後四項目)。

(10) 是レハ外位牌堂ノ夏

(11) 県下自他宗トモ一般也

(12) 但シ妙了寺ノ子院モ廃寺モ書上同様被廢候事

(13) 突ハ猪根村頂法寺へ御隠住カ

準歴潮生院日祐上人 字義裏」

明治二 己年二月初分飯高再檀三百三十六世信州

上田本陽」寺十五世 京東山文講」

明治六 癸酉 六月八日日本陽寺ヨリ入山（隱師大坂御巡説
御不在山中ナリ

当山開闢六百年之嘉会法要勤之同月廿四日ニ信

州へ御帰寺 明治六年 癸酉 八月十五日七十二才ニ

テ」御遷化 本陽寺へ葬ル」

七十三世文明院日薩上人 大僧正 字文嘉」

上州桐生ノ産 新居氏(一)」

師範ハ大車院日運聖人（字文貞 大河原淨應寺 神楽坂」普願寺
池上初歴六十二世(3) 越後柏崎妙行

寺京 東山文講」

身延山歴代略譜 (北沢)

(67ウ)

東京駒込蓮久寺 飯高光聖ニシテ 東山序文講 南谷談林ニテ日講ス
抑モ師ハ「壯年ヨリ加州竜像寺優陀那日輝和尚
ニ随学シ充洽園ノ耆人ナリ」依テ蓮久寺住中モ私
塾ヲ設ケ生徒ヲ教育ス遇々明治維新ノ革命「際」
朝廷教部省ヲ創立ノ諸宗ノ学侶ヲ芝増上寺大教院
へ徵集ス「師ハ初メヨリ出勤ノ宗内百般ノ事務ヲ
主ル実ニ維新ノ元勳也」

明治七戌ノ春七宗取締トノ甲信等巡回派出勤ル全
年依ニ本省命「当山七十三世ニ住職晋山シテ内外
之流弊ヲ釐正一新ス初メ訓導」ヨリ大教正ニ昇級
シ後ニ任大僧正管長勤務總持給願寺

因ニ記ス加州充洽園ノ学生方ニハ「

新居文嘉日薩

吉川誠研日鑑」

吉田堯存日昇甲ヲ倍立寺住化

三村宴政日修」

小林泰山日昇池上住ス新蜀本

中田 日阜」

存朗」

以上」

明治七 甲戌 三月三日久遠寺住職賜ニ指令「教部省ヨ

リ」

全 五月十九日四十六才ニテ入山 在位三年」

管長奈職中殊ニ宗内百般ノ事務多忙ニ付出京」

(68ウ)

代理 晴心院日陳聖人字玄妙 飯高玄五百四十五 甲府

遠光寺三十六世 明治七甲戌五月七日登山 全年十一月十九日退院半ケ年也 明治十四辛

巳三月十日化」

代理 自厚院日鑑聖人字顯隆 飯高玄講六百三十

世」下総内山村妙光寺明治七年十一月ヨリ全九

十四世(晋住ス)

七面山ハ要中院日顯聖人山本坊三十二世 薩摩ノ兩代勤

才」

奥院ハ本鏡院日行聖人定林坊廿八世 相又村正慶寺 明治十八乙酉五月三十一日 五十一才

明治七 甲戌 年十一月中旬代理吉川日隆師 御入山也

山内旧規改正十六ケ条 其余漸次ニ釐正之事」

明治七年十一月廿二日甲駿ノ三ヶ寺支院中會議」

支院四十七ヶ坊合併明治七甲戌十一月二十六日(会願) 全年十二月十五日県庁指令

建置寺 三十五ヶ坊」

改正条件」

皇政維新ノ御趣意ニ相基キ百般ノ事務旧弊ヲ洗除ス
ヘキハ勿論」勉テ無益ノ冗務ヲ相省キ教義研究ヲ專
務ト相心掛報國護」法ノ本意ヲ以テ僧儀ヲ相乱サス
文明ノ氣運ニ進歩シ治化翼」賛ノ功相立候様注意有
之度今般山内改正左之通相定」候」

(69オ)

- 一 山主百日祖堂朝勤ノ定限廃止セシメ在山中毎朝参堂之事」
- 一 塔中一般祖堂朝勤毎月割合定日出席必不可欠如之事」但シ不参ノ者ハ代勤相定且其旨具状ヲ以テ可届出事」
- 一 定日講席塔中一同聴聞不可不参ノ事」但シ不参ノ者ハ具状ヲ以テ可届出事」
- 一 毎日ノ講釈会説等塔中一同可成丈精々注意出席可致事」
- 一 老僧当番役等ノ課名廃止之事 但シ末派触頭并ニ諸猷納請書等」自今当番印不相用山主并代理ノ印ヲ相用候事」
- 一 年令法聽ニ不抱專ラ人材ヲ登庸シ役課可申付事」
- 一 教導職ノ等級ヲ以テ席次相定候事」
- 一 当分ノ内諸振舞時斉等一切廃止之事」
- 一 西谷檀林ノ旧号ヲ廃シ自今身延檀林ト相唱ヘ候事」但シ当分ノ内善学院ヘ留守居一名相定置講席ハ本院ニ於相勤候事」
- 一 当分之内能化職相廃シ山主直講ノ事 但シ山主不在山之日ハ代理ヲ以可相勤事」
- 一 教導職試補ヲ以テ新談義可相換之事」

身延山歴代略譜(北沢)

(69ウ)

- 一 本職拝命ヲ以テ上座成功ニ可相換事」
- 一 檀林生徒ヲ本院ヘ相移シ令勤學候事」
- 一 諸末寺交代ノ節ハ年令法聽ニ不抱公平ニ人撰シ本院ニ於テ篤与」検査ヲ遂ケ任職当器ノ者ニ候ハハ添翰可差出之事」
- 一 諸末寺繼目納金之儀ハ本院始塔中配賦等一切廃止シ右納金」積立諸堂向營繕ノ資本ニ可相備之事」
- 一 但年末会算シ一年ノ金納ヲ諸末エ達ヲ以可披露事」

(70オ)

- 一 諸国参詣有志猷納ノ儀ハ多少ニ不抱納主ヨリ本院ヘ直納」可致事」但シ請書ハ山主実印ヲ以テ可差出若シ不在山之時ハ代理ニテ請書」可相渡之事」
- 一 右之条件末頭塔中会議ノ上確定条条各寺塔中篤与」得其意堅可遵守者也」
- 諸堂方丈向類焼悉皆 明治八年乙亥一月十日午後六時 西谷本禮坊ヨリ出火
- 本堂 祖師堂 位牌堂 二天門 円師堂 鼓樓」
- 鐘樓 同番所 二重塔 万燈 舞臺 同衆屋」水鉢兩屋 御供所 會所 作事小ヤ 通本橋 同回廊」 祈禱堂 脱影堂 夏鐘堂 影現七面社 井幣殿 拜殿」五重塔 蕤師廟堂 大方丈 水鳴樓 經藏」真骨宝藏 井中央 廊下 拜殿 古佛堂 永

身延山歴代略譜 (北沢)

守ノ社」奥書院并膳所 大庫裏 寄附茶之間 玄
関式墓」對面所 院代部屋 穀倉 味噌倉 小
庫裏 拾軒部屋」時之鐘堂 廊下十三ヶ所 不淨
場十ヶ所 湯殿五ヶ所」鐘番小屋 束テ計七拾五
棟」

(70ウ)

寺中十二ヶ坊五十八棟 町家三軒拾棟 若者舞臺
棟」本種坊 常住坊 尊賀堂 琥珀稻荷社 本妙
坊 杉ノ坊」妙仙坊辰師堂 知恩坊 窪之坊本堂
宝蔵 秀悦坊」下之坊 岸之坊 林蔵坊本堂 興
師堂土蔵 花之坊」
惣計百四拾四棟一時ニ類焼ス」
本地堂 西寶蔵 東寶蔵 新寶蔵 表門」
同番所 裏門」
右七ヶ所ハ全ク残ル」

(71オ)

祖師堂仮殿七間半 寛文九年己酉安藤老成守造立之 西谷談林ノ講堂ヲ
元トノ大方丈ノ地ヘ引移」立之 明治八乙亥年三月
廿一日柱立五月十日祖師御座座十二三十四日」開堂供養」
真骨堂仮殿六間二尺 嘉永七年庚申十月是感院日行造立之 本行坊ノ客殿
ヲ引移シ造立之」明治八乙亥年四月七日柱立同五
月十日遷座」
講究所十一間 玄関式墓」文 宝永年中造立之西谷妙玄庵」ヲ引移ノ
九月上拜成就同十二月八日移徙也」
庫裏仮厨司八間 底九尺 新造受附二間半 内玄関式墓」二間

(71ウ)

新造添 ⁽¹¹⁾ 宝曆年間造立ノ西谷能化堂」西書院ヲ引移シ明治八
乙亥年十月廿二日」柱立同十二月八日成就移徙之」
生徒寮并廊下十間半 水廻兩屋七尺廊下二ヶ所」
惣置二間八間」
普請會所六間底九尺 引建立ス」 人足休息所妙善坊ヲ」 休息
所四間底四間 引建立ス」

尾州世話人会所」 光緒坊ヲ引建之移徙
明治八年乙亥十二月八日成就
奥書院十一間 文政七年申年盛運院日修造立ノ清水房ノ 書院ヲ元トノ真
骨ノ宝蔵ノ地ヘ建之」明治九丙子三月一日柱立四月廿五日
移徙」

大書院七間 左右縁側
四尺五寸ヲ 新造立 明治八丙子四月十四日柱立」
御真骨ノ八角寶蔵五間ノ八角造リ 明治八乙亥十一月九日」折初全
ノ折蔵堂ノ旧地ナリ」元ト 九丙子年」三月十一日地形取始
メ同九月十日柱立」

仮普請成就ニ付上棟法会修行 明治九 丙子 四月廿九
日」三十日五月一二三日ノ五日間法用動ル薩師掃
登山勤之」

棟札ハ 仮祖師堂 真骨堂 講究所 庫裏 小僧院」
生徒寮 右六枚代理日陰師ノ筆判形」
外ニ 廻本橋ノ廊下柿板葺更 明治七甲戌十月企之未瀧ニテ同」八年
乙亥一月十日焼失ス」施主ハ西京石田
音吉」

御住位大野本遠寺兼住職 ⁽¹⁷⁾」
明治九 丙子 八月御退名 東京ニテ管長勤務」池上 ⁽¹⁸⁾
御住山」

明治廿一戊子年八月廿九日於池上五十九才入寂』

〔註〕

- (1) 父 是法院能養日真
母 法性院妙真日養
- (2) 1 (日) 軌
- (3) (六十二世) ト
- (4) 全九年八月退任職
- (5) 柏崎妙行寺ヨリト
- (6) (會議) 決定
- (7) 明治八年大火災 (頭註)
- (8) 上ノ山
- (9) 同
- (10) 火元
- (11) 妙了寺十八世日秀 (造立)
- (12) (善学院) 庫裡ヲ (引移シ)
- (13) 物置か。
- (14) 西ノ方水鳴樓トシ東ノ方建増シテ御居間トナスカ
- (15) 是ハ對面所也
- (16) 全十四年三月廿一日鑑師代ニ至リ成就上棟惣供養
施主尾州一國一円信徒丹精
- (17) 函館常住寺開山ト
- (18) 六十五世ト

身延山歴代略譜 (北沢)

(72オ)

七十四世(1)(2)自厚院日鑑上人 字誠研 改順誠』

土州之産 吉川氏修治ノ裔』

父 辯儀法如居士 嘉永六癸丑八月七日 七十九才』 吉川文五郎道明
母 淨智妙輝信女 明治三庚午十一月九日 七十八才』

妻 岡妻直女事 兩堂共益所福井村常通寺』
茶山ニ拜ル

師範ハ體蓮院日擬聖人字最誠 土州要法寺三十二世
安政三丙辰八月廿一日化

堀之内妙法寺宿坊ニシテ加州充治園日輝和尚ノ門人

也 飯高』玄講六百三十世 内山妙光寺住任シ私

塾ヲ設学徒ヲ教育ス』飯高廃学ニ及ヒ時勢不容易

ニ付日々通勤ノ於ニ心性莽』二三ノ現座ヘ日講ス

維新革命ニ際シ訓導ヨリ大僧正迄昇級ス管長ヲ奉

職ス』

明治九丙子年十二月二日任職辞令同月六日代理』

二ケ年勤務ニテ直ニ入山 在位十一ケ年』

普請體遊院日球聖人 字陰玉 千駄ヶ谷仙傳院住ナリ』飯高檀林
幹事體遊院日球聖人 旧法輪寺歴 当山』七十二世日健上人ノ院
代勤メ明治七年戊五月上旬引取り同八乙亥火災ニ付』登山西谷坂
住居ヨリ引統キ常則会所在居ニテ諸向内外普請ニ幹事ヲ勤ル』

七面山ハ妙賢院日楨聖人 本行房三十九世』

奥院ハ本鏡院日行聖人鑑師代ヨリ勅號
明治十八乙酉五月三十一日』

釋量院社社 地再建 明治九丙子十二月七日遷宮禮日鑑判形』

時之鐘堂二間再建 明治九丙子十一月石置初同十年丁丑一月八日』
柱立四月成院 施主南条謙中

(72ウ)

身延山歴代略譜 (北沢)

支院四ヶ坊合併 西之坊 國沢坊 東之坊 明治十丑七月三日指令

祖師堂十二間再建立 明治十一年戊寅二月十四日新初、同十二年己卯二月三日立柱、明治十四年辛巳四月廿五日上棟

同廿九日祭祖大土遷座供養同、四月三十日コリ、五月十三日マテ六百遠忌方部修行

祖師宮殿 四方 再建立 明治十三年庚申九月成就、免起主玉泉寺住、觀川日行

御真骨ノ寶藏 五間ノ 禪師代 明治九年子九月十日柱立、禪師代 同十四年辛巳三月廿一日上棟

全拜殿 六間 明治十一年戊寅八月廿六日柱立、同十四年辛巳、中央廊下、同日新造

本地堂柿板葺更 明治十二己卯十月成就、日鑑代

小書院 九間四間 天保年中新造、西谷藤林本是院谷頭發引之、明治十四年六百遠忌手換ニ付講究所ノ裏ニ建ル

宗祖六百遠忌 明治十四 辛巳 歳正當

四月廿九日ヨリ五月十三日迄、七月七日ヨリ十三日迄、十一月十五日ヨリ十二月五日迄、三大会共諸末

寺末頭登山動(8)

本堂 十四間再建之企 明治十五年三月二日新立 鑑師代

布教 鎮下布教ハ勿論 諸寺ニテ遠忌ノ請持 尚大災後ノ事故

大鐘堂 三間再建立 明治十三年庚辰三月廿六日新初、同十四年辛巳二月三日柱キ初メ、同十五年壬午五月廿四日上棟ナ

ハ追年出来ス、石垣彫物等

焼失 本院厨子ウヘロリ出火ス 講究所六間 玄関附

小書院 昨年 生徒寮三間半也 明治十五年 壬午 十一月 建立ナリ

(74オ)

廿四日午前 十二時出火 旧十月十四日ノ正年也鑑師ハ中國筋ノ也重立寺院ト布教結社設立等ノ、觀論中ナリ市川依田孝モ在山ナリ、風静ナル故ニ四棟ニテ鎮火、原因ハ会式中大火ヲ焚キ天上ウヘ煤ヘ火氣、籠取ト云フ

祖堂前ノ金ノ香炉并雨屋

新厨司 十二間半再建立 明治十六癸未旧正月十三日新初、同六月柱立、同十一月十日落成、移徒シ

但シ甲駿兩國末寺及有志中施主也

祖師堂銅瓦ニ葺初メ 明治十八乙酉年九月

七面山本殿幣殿銅瓦葺 明治十四年企之、明治十八年旧九月十八日成就上棟

大客殿再建 明治十八乙酉年八月四日新初、同代表建ス

自厚山清分寺建立 明治十八年旧八月十四日新初

額之分鑑師揮毫

祖堂酒神閣 明司 法喜堂 覺林房 鶴林精舎、大乗坊 表門

本行坊琥珀殿邊盛坊摩利支殿 松并房開運殿

御真骨分骨 十月八日分骨、九州筑後久留米妙壽寺日願上人之徒弟ニシテ、流川村、本仏寺創立主中洲羅妙ノ要請ニテ旧例ニ依リ三ヶ

分骨シ証書一通ヲ授ケ、禪師モ御加判アリ右鎮西身延本仏寺ハ日願上人ヲ附祖トシ、羅妙日振ヲ第二世トス、唱道院ト号シテ日願上人ノ門人也

明治十九 丙戌 年一月十三日六十六才入寂 在山、東テ十三年

[註]

(一) 大僧正

(74ウ)

(2) 明治五 壬申 四月久遠寺学頭トナリ教部省へ出仕ス
全七年十一月ヨリ九年十一月マテ御在山薩師ノ御
代理在勤ス

(3) 里見(氏)

(4) 祖師宮殿の規模不分明。

(5) 尾州惣講中施主

(6) 「(廿三)日」を朱字加筆。

(7) 「中央廊下」の規模不分明。

(8) 法華經一萬部誦誦薩師モ御出勤也

(9) 未成功ナリ

(10) 法喜堂ナリ

(11) 十九年七月建前

(12) 日向上人ノ古跡樋沢坊地所へ建立ス陋栖所ナリ不
移遷化ス

(13) 鎮西身延別院安置

(14) 明治十四五年カ

(15) 中洲耀妙師ハ池上へ晋山日振是也リ化ス

七十五世心妙院日修上人 大僧正 字(宴政)

備後国深津郡川口村中村源助四男(2)(幻名) 本家同村
三村政右衛門

新

父 東隆院行忍日御 天保三壬辰五月十二日
母 忠性院妙貞日御 天保十己亥十二月廿八日

身延山歴代略譜(北沢)

(75オ)

師範ハ普門院日現聖人御中加懸郡東蘇尻村妙傳寺十八世
安政六己未年十月廿一日 七十三才化
後ノ師ハ(3)(4) 院日合聖人備後沼隈郡水呑村妙頭寺

文政六 癸未 年三月四日生レ九才出家天保十年鶏冠

井檀林ニテ新設山城國 乙訓郡上久我村本清寺住蜀山日輝和尚 本戸郡

随逐加州充治園ノ学生ナリ 中村庠成功水呑村

妙頭寺ヨリ京本國寺(4)(5)四十六世 明治十八年十一月任

管長

明治十九 丙戌 七月十三日六十四才ニテ入山 在位六

年

代理時々妙俊院日壽聖人字要俊 志摩坊 覚林房

一老驥也 大鎌義

監督 顯壽院日遙聖人字顯好 西谷先哲 薩師ノ学人 奥津麗海 寺 中条長遠寺 油田本堂寺 玉沢

七面山ハ妙賢院日禎明治廿三年庚寅 十月廿日 七十二才

同 智逗院日照大栗坊 竹之坊三十四世 七面山銀峯ヨリ

同 奥院ハ妙行院日慈林蔵坊三十三世

同 要雄院日現竹之坊三十五世

大客殿ノ造作薩師代建立 土居尊勝成 修師入山 明治十九年

身延保存會組織設立祖山永統維持元資金五十万 万内募集ノ目的

七面山ノ本殿再建立明治二十年丁亥 旧四月十日 上機

影向石(4)(5)

身延山歴代略譜 (北沢)

大鐘堂 監師代造立 今回土瓦葺落成ス
明治二十年丁亥四月

惣門内太平橋掛替 從來ノ規模ヲ改メ新築壯觀ヲ増ス
明治廿丁亥四月十一日渡初ノ上棟式

祖師堂 土瓦葺落成 監師代綱板ヲ以テ所々葺始ト 鎌倉易ノ事ニアラ
ス依テ暫ク土瓦ヲ以テ葺置ク 明治二十丁亥十二月成就

米藏殿入土藏 明治廿一年五月落成
西谷醫學院ノ旧土藏ヲ移転改築ス

奥ノ院二王門土瓦葺成就 明治廿二年六月

前擔当加藤要明 後擔当田中日現 普請幹事ハ

永田裕爾後ニ山高史相寺住

旧上地御料林委託許可 明治廿三年三月廿一日

遠州金原明善氏 東京伊藤茂右衛門氏 率先尽力ス
裁培主任 山高史相寺前住岩瀬日照

大堂祖像居開帳 明治廿三年五月六日ヨリ廿六日迄 三周間開扉
テ大客贖ニ於テ什室ニ古佛顯ヲ展覽セシム但シ居
レナシ 今回ヲ嚆矢トス

仮二王門ヲ再ヒ建立 明治廿三年五月廿五日落成
普請担当 惠善坊高明院日永

宗祖御草庵ノ旧跡地方拾間四方御影石玉垣新築

明治廿三年七月落成 駿州内房本成寺住福川日行ノ獨撰ナリ
寄附主 旧播州徳路灸ノ御後室伯母酒井園野院殿文字ノ御方ナリ

納骨堂再建立 明治廿三年新始 廿四年十月上ノ重綱

法喜室ノ土瓦家根成就 明治廿三年 庚辰ノ十月

明治二十四年 辛卯年五月十七日 谷中端輪寺敷發中
六十九歳入寂

〔註〕

(1) 三村(氏)

(75ウ)

(2) 「幼」名」なるべし。

(3) 院号を欠く。

(4) 「七才」を「九才」と訂正。

(5) 六十五世氏 晋山ナリ

(6) 鈴木(氏)

(7) 久保田(氏)

(8) 岩瀬(氏)

(9) 田中(氏)

(10) 本三門ハ慶應元十二月十四日焼失ニ付全二寅八月
仮二王門ヲ立ル然ル(ニ)又焼失ニ付仮リニ再立
ス

七十六世春應院日卓上人 字

〔註〕

(1) 何故か歴世教・院日号のみの記載となっている。

76丁裏の全てを記載予定(白紙)としている。

七十七世境行院日嚴上人 字一行

師範ハ静養院日勝聖人 字一遠 飯高玄講五百八十九世 房州
天津日蓮寺 總持村田 当山六十七

代日燈上人御代七
面山ノ別当勤ル

法師倉村宗延寺静養 七面山ニテ得度 谷中端輪寺ニ隨身中飯高玄
院住職中ヨリ隨身ス 後チ玉沢日輝

聖人ノ門 受讓玉沢江住ス 明治廿一年ノ頃宗務院管

(76オ)

長日修上人ノ「監督ヲ勤ル會議後為_{宗會}同盟覺ト相分紛_{宗會}有之」

明治廿六年十月 ⁽²⁾ 日請待」

明治廿七年三月十日玉沢ヨリ入山式」

監督 智明院日布聖人 姓相田 智仰昌福寺 字滋香 明治廿七年秋池田本覚寺へ入山

執事 特命 児嶋宜晃 推選 和田魏龍 神取充門寺 山高実相寺 小河原淨蓮寺」

隨身長 落合輝長 小林泰秀」

⁽³⁾ 七面山ハ 元ト大林坊 赤沢妙福寺 篠場ノ坊 篠原本妙寺 又」

奥院ハ要雄院日現 姓田中 竹之坊三十五世」

監督 真昇院日竜聖人 姓山崎 妙了寺四十四世 字顔徳 明治廿八年十一月冬ヨリ」

〔註〕

(1) 西谷ニテ新説ス

(2) 日付を欠く。

(3) 別当の院日号を欠く。

(4) 「廿九年」を「廿八年十一月」と訂正。